

大阪薬科大学報



Osaka University of Pharmaceutical Sciences

2007年（平成19年）6月29日発行

目 次

新入学生を迎えて	学長	栗原拓史	1
退職に託して我呷き		玄番宗一	3
玄番教授ご退職に寄せて	薬品作用解析学研究室 助教	河合悦子	3
退職の挨拶		木村捷二郎	4
木村教授ご退職に寄せて	環境分析学研究室 助手	山沖留美	4
就任の挨拶	薬品作用解析学研究室 准教授	大野行弘	5
就任の挨拶	病態分子薬理学研究室 講師	大喜多守	5
就任の挨拶	生体防御学研究室 講師	藤森功	6
退任の挨拶		肥塚敏彰	7
事務局長就任にあたって	事務局長	田部信重	7
第92回薬剤師国家試験結果について	前薬剤師国家試験対策委員長	藤田芳一	8
「紀要」の創刊にあたって	紀要編集委員長	加藤義春	8
平成18年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	辻坊裕	9
平成18年度進路・就職状況について	キャリアサポート部長	田中一彦	11
平成19年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正一郎	13
平成19年度市民講座	市民講座委員長	天野富美夫	13
大型機器紹介	研究委員長	辻坊裕	14
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員	二宮ひとみ	14
海外留学報告—Visiting UNC as an Assistant Professor—	有機分子機能化学研究室 講師	宇佐美吉英	15
平成18年度学校法人決算及び平成19年度学校法人予算	事務局長	田部信重	17
事務局だより			21
教員研究業績（2006年）			30
薬用植物の紹介（トウキ）	薬用植物園長	馬場きみ江	

新入学生を迎えて

学長 栗原 拓史



新しく大阪薬科大学に入学された皆さん、おめでとうございます。校門沿いの満開の桜並木に迎えられ、希望に満ちた大学生活のスタートを切られたことでしょう。大学は学び舎であり、自分のやりたいことを見つける場であり、人間形成（精神的にも、肉体的にも）の場でもあります。式辞で申し上げた「Aller Anfang ist schwer」、事の初めは何事も多少の苦労は伴いますが、『挫けず、投げ出さず、諦めず』の気持ちで乗り切らねばなりません。多くの医薬品の誕生に、「偶然の発見」（セレンディピティー）がその端を発していることは薬学概論の講義で話しました。しかし、その発見も、ただぼんやり眺めていては見逃してしまうだけです。そこには、『何が何でも』という粘り強さと研ぎ澄まされた観察力が伴わなければなりません。プロフェッショナルとしての薬剤師、薬学者たるにも同じことが要求されるでしょう。

薬学教育6年制の2年目が始まりました。本学の教育システムの特徴は、3年次までは同じカリキュラムで教育を受けた後、4年次進級時に6年制の薬学科及び大学院と連動した4年制の薬科学科のどちらかを自分の意思で選択することにあります。薬学科は、十分な科学知識と生命倫理を基盤とし、医療に貢献できる薬剤師のスペシャリストを育成することを教育目標にしています。一方、薬科学科では、学部4年次と2年間の大学院修士課程を有機的に連動させ3年間の連続した研究指導によって、研究者として多様な分野で活躍できる能力を身に付けた人材を養成することが目標です。それぞれの魅力と活力に富んだ学科としての特徴を、より明確に皆さんに提示するためもうしばらくの時間をいただきたく思っています。

申すまでもなく、本学は医療人を育成し、国民の健康に寄与する人材を社会に送り出す責務を担っている大学です。『大学丸ごと無煙化作戦』これは、昨年7月15日の日経新聞の一面を大々的に飾った見出し語です。関西のキャンパス全面禁煙の主な大学がリストアップされ、大学によって様々な取組みがされていますが、女子大や医療系の大学がまだ中心のようです。誰もがタバコの中毒性と健康被害を知って、幾度も禁煙に挑戦しながらや

められない「たばこ病」。イライラしたときの一服、眠気覚ましの一服を求めて、やめたくても、なかなかやめられない人も少なくないようですが、「百害あって一利なし」と断言するその道の研究者、研究結果もまた少なくありません。若者の喫煙率が高いことが気がかりな点です。大切な学生諸君に、折角親御様から頂いた体を蝕む行為だと認識を持ってもらいたいものです。そして、本学学生が範を示し、健康で、マナーを守り、少しでもクリーンな構内にしたいものです。もちろん、喫煙者の協力が何より不可欠であることは言うまでもありませんが。

去る3月28日～30日に、日本薬学会第127年会が富山大学を中心にして開催されました。その数日前の3月25日、能登半島沖地震があり大変な被害をもたらしましたが、被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。春休み中のことでもあり、帰省中の本学学生についての調査では、震度5以上の該当地に2名の学生が確認されましたが、幸い当人を含むご家族には直接的な被害は無かったようでした。阪神・淡路大震災から12年、我々5～60歳台の年代は、恐らく全国どこにいても、今後それ規模の大震災に遭遇する可能性が一度はあり、若者には少なくとも二度の経験をするであろうことが予測されています。現代の「防災三種の神器」は携帯電話、ペットボトル、携帯ラジオだそうです。幸い90%以上の若者は、前二つは常時持ち歩いているようです。携帯電話については充電器の問題も付随しますが、問題は携帯ラジオだそうです。更に、空のペットボトルは次を買い足すまでは、水の補充のために、廃棄しないで持つておくことが、万々に備えて必須のようです。

この度、3月末で3名の教員が定年退職によって大学を去られ、新たに4月1日から3名の先生（大野准教授、藤森講師、大喜多講師）が赴任なさいました。併せて、教員組織、研究室名が一部変更となりました。次ページの教員構成一覧をご覧ください。アドバイザー、クラブ顧問の先生方の研究室名をしっかりと覚えてください。

最後に、皆さんの充実した学生生活とこれからのますますの飛躍を心より願っています。

平成19年度 教員構成一覽

学長	栗原 拓史
----	-------

研究室等	薬学系教員		
薬品物理化学	(教授) 石田 寿昌	(准教授) 友尾 幸司	(助教) 尹 康子
分子構造化学	(教授) 土井 光暢		(助手) 浅野 晶子
生体分析化学	(教授) 千熊 正彦*	(講師) 齊藤 睦弘	(助教) 佐藤 卓史
創薬基盤科学	(客員教授) 小林 祐次		(客員助教) 西 義則
生体機能診断学		(准教授) 大桃 善朗	(助教) 平田 雅彦
薬品合成化学	(教授) 春沢 信哉		(助教) 箕浦 理佐
有機分子機能化学	(准教授) 有本 正生	(講師) 宇佐美 吉英	(助教) 市川 隼人
機能分子創製化学	(教授) 浦田 秀仁	(講師) 和田 俊一	
医薬品化学	(教授) 田中 麗子	(講師) 山田 剛司	
生薬科学	(教授) 馬場 きみ江	(准教授) 谷口 雅彦	(講師) 芝野 真喜雄
生化学	(教授) 池田 潔*	(准教授) 井上 晴嗣	(講師) 藤井 忍
微生物学	(教授) 辻坊 裕	(講師) 宮本 勝城	(助教) 土屋 孝弘
生体機能解析学	(教授) 高岡 昌徳	(講師) 坂口 実	
生体防御学	(教授) 天野 富美夫	(講師) 藤森 功	
環境分子生理学	(教授) 藤本 陽子	(講師) 佐久間 覚	
環境分析学	(教授) 三野 芳紀		(助手) 山沖 留美
薬剤学	(教授) 掛見 正郎	(講師) 岩永 一範	(講師) 宮崎 誠
病態分子薬理学	(教授) 松村 靖夫	(講師) 大喜多 守	
薬品作用解析学		(准教授) 大野 行弘	(助教) 河合 悦子
臨床薬剤学	(教授) 田中 一彦	(准教授) 井尻 好雄	(助手) 加藤 隆児
薬物治療学	(教授) 田中 孝生		(助教) 幸田 祐佳
臨床化学	(教授) 藤田 芳一		(助教) 山口 敬子
臨床実践薬学	(教授) 荒川 行生	(講師) 恩田 光子	
臨床薬学実務教育		(講師) 西野 隆雄	(助手) 羽田 理恵
中央機器研究施設		(助教) 箕浦 克彦	(助手) 藤嶽 美穂代
情報科学関連研究施設		(講師) 大石 宏文	
動物関連研究施設		(准教授) 安田 正秀	

* 嘱託教員

グループ	総合科学系教員
言語文化学グループ	(教授) 坂田 勝治*
	(教授) 濱中 久美子
	(教授) 楠瀬 健昭
自然学グループ	(教授) 土井 勝
	(講師) 永田 誠
人間文化学グループ	(教授) 加藤 義春
環境医療学グループ	(教授) 松島 哲久
	(准教授) 阿部 功
	(講師) 当麻 成人

退職に託して我呟き

玄番 宗一

30年余りに大阪薬科大学に採用され、薬剤師養成教育への貢献のあり方を考えたことが初まりでした。

1. 未来を託す

学生の教育に携わる動機は、『未来を託す』ことにあると思っています。薬理学関連科目の講義を担当しましたが、1回毎に反省の連続でありながら、その回数においては、1,486回に達しました。病院・薬局実習から戻ってきた学生が、実習中に指導の薬剤師の先生から、薬理作用を質問され、習ったことを覚えていたので答えられました、と話してくれる学生達の笑顔が喜びの糧でした。入試を大阪薬大への入口とすると、出口では国家試験対策が講じられています。今後入口と出口の間（在学中）の『学生ケア』改善論議〔学内教育ワークショップ、支援制度（担任制見直し）や『オハヨウから始まるコミュニケーション向上』等の検討〕が必要なようです。

2. 研究を薬剤師生涯教育に生かす

前任の大学で腎臓薬理学を研究テーマにしていたので、大阪薬大でもテーマの継続を考えました。薬剤師の生涯教育に貢献できることは副作用情報ではなかるうか、と考えたことが研究の動機でした。腎臓は、肝臓や骨髄とともに、くすりによる副作用をたいへん被り易いところですが、くすりによる腎障害の多くは急性腎不全とよばれますが、慢性腎疾患を招くこともあります。どのようにして副作用が引き起こされ、いかに防衛や治療をなすべきかを、知りたいと思い続けてきました。研究活動を通じて、たくさんの製薬企業（特に安全性研究所）の方々との出会いの機会を得ました。今後薬剤師さんは生涯学習により、副作用の早期発見に貢献しなければなら

りませんが、患者さんに『副作用が起こっても対処法があります』と説明できるようになれば、くすりの安全性に対する信頼感を増すことでしょう。

3. 社会的な関わり

本学での役割分担は、何故か当時の入試・広報課でした。市民講座、公開教育講座や広報委員会の委員長職に限っても、延べ10年間でした。ところで日本薬理学会の広報委員会委員を通算8年間、日本トキシコロジー学会の広報委員長を3年間務めましたので、学内外を通じて広報（特に、ホームページ（HP）の立ち上げ・管理と公開講座開催など）に関わったわけです。今後本学のHPの一層の改善と社会貢献（特に、薬剤師生涯教育講座）の充実を願っています。学会の学術年会・近畿部会、全国的な研究会や教員会議等の世話人を指名されましたので、研究室では実験資料と並んで学会資料が積まれていました。特に高槻に移転してからは、研究時間のかなりを、学会等の学外の活動に当てた暮らしであったようです。これらを通じて、海外の方々や出会う機会に恵まれましたが、彼らが名刺の本学英文表記『Osaka University of ...』を見ると『オマエの大学を訪問したことがある』と、いつも近隣の大学と取り違えられたことが、懐かしく思い出されます。国内受験人口の激減と6年制教育を機会に、アジアの諸国から本学への留学生を積極的に受け入れる制度の確立を祈念しております。アジア各国で本学出身のアジア人薬剤師が、活躍すれば、と夢想しています。

30年間余をたいへん愉快に過ごさせてくれた大阪薬大に乾杯。

玄番教授ご退職に寄せて

薬品作用解析学研究室 助教 河合 悦子

玄番宗一先生には、平成19年3月31日をもって定年退職されました。

玄番先生は、大阪市立大学医学部薬理学教室の助手を経られて、昭和49年4月大阪薬科大学第2薬理学教室の講師として着任、平成元年4月には教授に昇任されました。本学を3月に退職されるまでの33年間、腎臓薬理学研究のみならず、薬学教育にも情熱を注いでおられました。研究においては、一貫して薬物性腎障害発現機序の解明をテーマに進めて来られました。今ではあたりまえとなりましたが、当時、生物系ではまだ未知であった“フリーラジカル”に着目され、抗悪性腫瘍薬シスプラチンによる腎毒性とフリーラジカルとの関係をいち早く明らかにされました。また、関連学会での運営にも数多く携われ、学会の年会長や研究会の世話役、役員などと学会活動にも貢献されていました。

玄番先生がこれまでに送り出した特別実習生は総勢293名、大学院学生42名となります。企業や研究所、病院・薬局へと多くの分野へ優秀な人材を送り出されてきました。研究室へ配属された学生に、玄番先生は折に触れ、出会いそして人と人とのコミュニケーションの大切さを魅力ある話術で伝え、多忙な中、薬理学研究室出身の方々との交流をいつも大切にされていました。懐し

いばかりでなく、妥協せず我が信念を貫く、という厳しさも持ち合わせた先生でした。

私は学生時代から現在に至るまで18年間お世話になりました。学部卒業後すぐに副手として採用され、研究の何も知らない私に、自然科学のすばらしさ、知的ハングリー精神、そして研究に向き合う姿勢を教えてくださいました。

平成19年4月からは教壇を横浜薬科大学（機能形態学）に移され、引き続き薬学教育に情熱を注がれています。玄番先生の今後のご健勝ならびに益々のご活躍を祈念いたしております。



(2006年秋 薬理学教室同窓会)



退職の挨拶

木村 捷二郎

1974年10月、京都大学原子炉実験所から本学に転任、それから32年後の今春、定年退職に至った。以下、本学での思い出を振り返って

みたい。

赴任直後、まず榎学長から「木村君は本学出身者であるが、RI研究施設の建設と放射化学研究・教育の充実のための人事」と紹介された。それから2年後、松原学舎第5期増築計画の中で放射化学研究室と学内共同実験室を兼ねた施設の設計・建設のゴーサインがでた。以後、科学技術庁の助言・協力を受けながら、1978年4月、約240m²のRI研究施設が竣工し、第一回放射線業務従事者教育訓練（参加者：29名）でスタートした。その後、RI有機廃液焼却施設や放射化学実習施設の増設が行われ、狭いながらも学内でRIトレーサ実験と教育が行えるようになった。また、1996年の現高槻学舎への移転では、約2倍の広さのRI研究・実習施設が建設され、現在に至

っている。ちなみに、ここ数年の教育訓練への参加者は、再・新規教育を含めて約130名であり、これまでの利用者登録総数は3,000名を超えている。一方、赴任のもう1つの目的「放射化学研究・教育の充実」について、自画自賛とお叱りを受けるかもしれないが、何冊かの教科書を共著・発行する中で、田中、大桃両先生との協力の下、わが国の薬系大学の中では最先端の放射化学教育を目指してきた。また、放射線安全管理の専門家「放射線取扱主任者」国家試験の受験・講習セミナーを通じて30数名の合格者が誕生し、多くの卒業生が製薬企業などのRI関連部門で活躍している。これらのニュースを聞くことは教師冥利に尽きる。また、研究面では、微力ながら、わが国での「医薬品原料・製剤の放射線殺滅菌」の実用化に尽くせたかな？今春4月以降、もうしばらく（財）原子力安全技術センターの参事として、「放射線障害防止法」に係わる主任者資格講習や再教育、施設検査などの業務をお手伝いする予定である。

木村教授ご退職に寄せて

環境分析学研究室 助手 山沖 留美

木村捷二郎先生には、平成19年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、昭和49年10月に本学の講師として着任され、以後、一貫して、本学における放射線取り扱い施設の管理運営、さらに、薬学教育における放射線の安全取り扱いにご尽力なされてきました。また、研究面においては、放射線の薬学領域での利用やラジオアイソトープの環境中での挙動についての研究を行ってこられ、特にこれらの中でも、医薬品原料の放射線殺滅菌処理の発展に寄与されました。

一方で、先生は大変、スポーツ好きの気さくなお人柄で、ソフトテニス部（旧、軟式テニス部）を始め、アルペンスポーツクラブの顧問を歴任されました。学生達と

アウトドアに行き、そのすっかり日焼けした顔を学内の先生方から冷やかされるようなことも多々ありでしたが、いつもどこか嬉しそうにしておられました。研究室内外を問わず、先生を慕って訪ねてくる学生や卒業生が多かったことは、このような先生のお人柄ゆえのことだと思います。ただ、教授に昇任されてからは、学生部長ほか、要職の職務を全うされるあまり、かなりご多忙となり、個々の学生と接する機会が少なくなってしまったことは、少しお寂しく、残念だったのではと思います。

最後になりましたが、32年の長きに亘り本学にご尽力頂いたことに感謝申し上げます。先生の今後の益々のご健勝およびご活躍をお祈りいたします。





就任の挨拶

薬品作用解析学研究室 准教授 大野 行弘

本年4月1日付で、薬品作用解析学研究室に准教授として着任いたしました大野行弘と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

25年ぶりに母校にもどり、新たな気持ちで6年制となった薬学教育に取り組む機会を賜り、心から感謝いたしております。

私は、昭和58年に本学大学院修士課程を修了しました。その後、京都大学大学院医学研究科にて博士課程を修了し、米国メリーランド大学医学部での留学を経た後、住友製薬株式会社（現：大日本住友製薬）研究所において約15年間、新規医薬品の創薬・薬理研究に従事してまいりました。また、昨年1月からは大阪大学大学院医学研究科（分子・細胞薬理学）に勤務し、医学部での研究・教育に従事してまいりました。京大に進学して以来これまで、主として中枢神経系に関する薬理研究に携わってきており、旧職の住友製薬時代には、脳内アミンに着目した幾つかの研究プロジェクトを進めることがで

き、ペロスピロン（統合失調症治療薬）、タンドスピロン（不安障害治療薬）、ドロキシドパ（パーキンソン病治療薬）といった精神神経系薬剤を医療の場に提供することが出来ました。こういった薬剤も今では広く臨床使用され、薬理学の教科書や薬剤師国家試験にも登場するようになり、創薬研究を通じて多少なりとも患者さまの医療に寄与できたかなと嬉しく思っております。

今後は、薬学の基礎を学んだ母校において、これからの時代を担う学生の皆さんの教育に全力を尽くしたいと思っております。現在、「薬理学」と「医薬品副作用学」の講義を担当しておりますが、これまでの創薬研究・臨床研究の経験を活かし、医薬品の有効性と安全性を適正に評価できる薬剤師、薬学研究者の育成に努めたいと考えております。また研究面では、玄番先生の築かれた旧薬理学教室の歴史と実績を手本として、少しずつ新たな研究テーマも立ち上げて行ければと願っております。どうぞ皆様には、何卒よろしくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



就任の挨拶

病態分子薬理学研究室 講師 大喜多 守

このたび、平成19年4月1日付で病態分子薬理学研究室（松村靖夫教授）に講師として就任いたしました。着任にあたり、自己紹介

を兼ねましてご挨拶申し上げます。

私は、平成14年3月に本学大学院博士課程修了後、ミシガン大学医学部小児科消化器内科の博士研究員としてDr. Gariepy CEのもとで「食塩感受性高血圧におけるエンドセリンシステム」に関する研究に従事しておりました。また3年前からは、大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センターの博士研究員として学部・大学院時代からの古巣である病態分子薬理学研究室に所属し、松村靖夫教授、高岡昌徳教授の指導の下、「虚血性臓器障害の発症におけるDNA複合体の関与の解明と治療薬の開発への応用」に関する研究に携わり、現在もこのテーマに基づく研究を進めています。

私の専門領域は薬理学ですが、近年の生命科学研究の著しい進展に伴い、学生に教授すべき情報量は膨大なものとなっています。医療の現場においても新薬が続々と登場し、最新の知識が実際に治療にまで応用されてきています。また、昨年度から導入された薬学部6年制課程

は、こうした日々激変する医療環境において「即戦力となる薬剤師」を養成することを主体としています。現在までの日本の薬学部では、薬の研究と生産、そして医療の3分野で活躍する人材を育成してきましたが、6年制課程の導入は既存の薬学部の姿を大きく変え、極論すれば、薬学部を薬剤師養成のみに特化させる方向に進ませる可能性も考えられます。事実、私学系薬学部の多くが完全6年制へとカリキュラムを移行させる中、本学は薬剤師養成という職能教育だけでなく、現状の医療薬学と基礎研究を両立させたカリキュラムにも重点を置く数少ない教育機関としての機能を維持しています。私自身も医療に直結した薬学教育とともに、創薬という薬学部伝統のサイエンスをこれからも学生に伝授して行きたいと思っています。

最近の薬学部新設増加と少子化により、近い将来、いくつかの薬科大学あるいは薬学部が淘汰される時代が確実に来ると思われます。私は、伝統ある大阪薬科大学の更なる発展に貢献できるよう、また、最先端の薬学教育を学生に教授できるよう努力する所存でありますので、皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



就任の挨拶

生体防御学研究室 講師 藤森 功

平成19年4月1日付で、生体防御学研究室（天野富美夫教授）に講師として着任いたしました。よろしくお願いたします。平成5年に大学院修了後、ノバルティス・ファーマ株式会社、住友化学株式会社の研究所と財団法人大阪バイオサイエンス研究所で、約14年間、研究を行って参りました。研究の場から教育の場へと環境が大きく変化し、勉強する毎日です。

ノバルティス・ファーマと住友化学の研究所では、癌転移抑制剤の研究・開発、遺伝子診断による抗癌剤の投与前適応診断法の開発と抗肥満薬の研究を行ってまいりました。前職の大阪バイオサイエンス研究所では、プロスタグランジンをはじめとした脂溶性の生理活性物質の機能解明や産生制御機構の研究を行ってまいりました。また前職では、連携大学院である大阪大学医学部の大学院学生の研究指導も行ってまいりました。最近の研究現場では、

キット全盛であり、原理が分からなくても安易にキットを頼って実験をする風潮が見受けられます。物事の原理を見つめない所や過程を大切にせず、すぐに答え（結果）を求めようとすることに危惧を感じています。科学は、「なぜ？」と思う単純な出発点から、その「なぜ？」を科学的に解明していく過程が大切であると考えます。

学生に対しては、常に問題意識をもって授業や実習に臨み、常に科学的な視点をもつことを望みます。また、教育・研究のいずれにおいても、基礎（基本）が大切であり、基礎なくして応用はありえないと考えています。

今後は、これまでに経験してきましたことを教育・研究に役立て、大阪薬科大学の発展に少しでも貢献できるように努力していきたいと思っております。先生方におかれましては、御指導、御鞭撻頂きますようよろしくお願い申し上げます。

高槻市と「地域連携協定」を締結

去る平成19年1月11日（木）、高槻市役所において「学校法人大阪薬科大学と高槻市との地域連携に関する協定書」の調印式が行われました。

これは、大学と地域社会の発展及び充実を図ることを目的に、教育・人材育成、生涯教育、医療・福祉等の6つの分野について、相互に連携・協力するというものです。

本学においては、年2回高槻市と共催で市民講座を開催する等、これまで連携を図ってきましたが、今後はこの協定に基づき、高槻市主催の市民講座への教員の派遣、健康都市づくりへの協力等、地域、社会への貢献を図っていきます。



退任の挨拶

肥塚 敏彰

大阪薬科大学には平成13年4月から本年3月末まで、6年間お世話になり誠にありがとうございました。

振り返ってみて、印象に残っていることの中から3つだけ取り上げて記してみます。1つは創立100周年記念事業を教職員や同窓会等関係者の皆様のご協力、ご支援を得て概ね成功裏に終えることが出来たことです。目標額1億5千万円の募金事業も91%達成できました。100年史を刊行し、本学志願者のいる高校などに広く配付しました。また、向こう10年間の新入生にも配付されます。道修町の塩野義製薬本社前には「大阪薬科大学発祥の地」の記念碑を建てることができました。大阪薬科大学の新しいロゴも制作し、校旗や看板や名刺、封筒等に活用されています。立派な学歌碑も中庭に建てて記念写真スポットとなっていますし、学歌のCDも制作できて活用されています。そして、図書館奥にささやかですが資料室を設けることができ、工夫されたエントランスや大学の歴史を物語る映像資料は来学された卒業生にとっても喜ばれています。また、それまでなかった本学独自の奨学金制度も設けられて、継続運営されていますし、

育友会には学費支払い困難になった学生のセーフティネットとなる学費融資制度も設けていただきました。

2つは、附属薬局の経営、運営について苦労したことです。附属薬局は平成11年11月に、学生、大学院学生の実務実習教育に役立てることを目的に開局されましたが、私が着任しました平成13年頃は、まだ教学と附属薬局との連携はあまり密ではない状況でした。しかし、その後、薬局長をはじめ薬剤師のスタッフも入れ替わり、教学側でも臨床薬学を専門とする新しい教員も着任され、附属薬局の日常の保険調剤業務が安定して行われるとともに、ようやく、当初の目的であった薬学実務実習にも有効に活用される体制が整ったと期待しています。

3つは、薬学教育が6年制になったことによる志願者の減少と規制緩和によって薬科大学薬学部が新設、倍増されたことによる今後の薬科大学の経営の難しさです。

100年余の歴史と伝統を有する大阪薬科大学においてもこれからが経営が難しくなる時期だと思いますが、今後も存続と繁栄を続けられて、創立200周年を迎えられますことを切に願っています。



事務局長就任にあたって

事務局長 田部 信重

このたび、伝統ある大阪薬科大学に、肥塚事務局長の後任として4月1日付けでまいりました。人口構造の変化もあって大学は国公私立を問わず厳しい運営に迫られている中、改めて気を引き締めているところです。

私は大学紛争の熟さめやらめ昭和45年に、大阪大学に採用され、理学部人事掛に配属されて以来、37年にわたり教育行政の一端に携わってきました。途中、呉高専、三重大学、新潟大学、徳島大学の庶務（総務）課長・人事課長を経て再び大阪大学に戻り、産業科学研究所事務部長として勤務しましたが、その間、主として人事・総務関係事務に従事してきました。

国立大学は、平成16年の法人化以降、大学の裁量が増した一方で効率化が求められ、それは運営費交付金の年1%減に現れるため、これまでに増して簡素合理化に

努めなければならないほか、競争的資金を含めた予算確保に工夫を凝らしていますが、私立大学においては、国立大学以上にコスト意識をもって運営に創意工夫をする必要があるのではと感じているところです。しかしながら私立大学での経験は初めてであり、これから事務局の皆さんとともに勉強しながら大阪薬科大学のために尽くしたいと心を新たにしています。

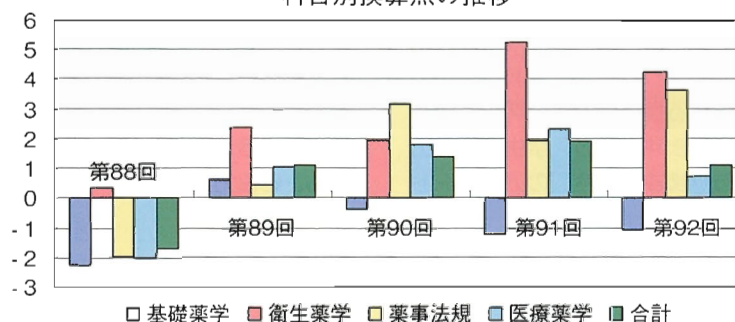
もとより大学は教育と研究が使命であり、その意味では主役は教員ですが、教員とそれを支える事務職員がうまく連携してこそ、より良い教育研究ができるものと思っています。そのため事務職員は「教員と事務職員は車の両輪である」との自負と責任感をもって職務に当たる必要があります。そうした事務職員の意識改革の面からも貢献できたらと思っています。今後よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

第92回薬剤師国家試験が本年3月10日、11日の両日に実施され、その合格者発表が4月6日に厚生労働省より行われました。本学の今年度の成績は既卒者を含めた全体合格率が81.76%で全国19位（昨年82.03%で13位）、新卒合格率は88.72%で全国15位（昨年93.33%で2位）の成績に終わり、ここ3年間の成績を大きく下回ったこと、委員長として大変申し訳なく存しております。この原因として、始めに危惧しておりましたように、昨年度の4年次生は、すこし暢気なところがあったのでしょうか、なかなかエンジンがかからなかったのもその一因かと思っております（もう少し早い時期に国家試験対策を立てて実施するのが良いかもしれません）。

第92回の科目別換算点（新卒）をここ数年で比較しますと、下図に示しますように、衛生薬学、薬事法規は好成績でしたが、医療薬学の思わぬ不振、低迷する基礎薬学により、合計平均が最近の成績より、やや悪い結果となりました。

昨年度の薬学総合演習の対策として、従来の基本方針

科目別換算点の推移



を引き続き継承しながら、(1)「基礎薬学の学力向上」を今まで以上に強化すること、(2)「成績不良者の学力向上」に力を注ぐこと、(3)「既卒者の成績向上」に留意すること、を目標にし、「継続は力なり」を合言葉に掲げ、国家試験対策を行ってきました。(1)の具体的対策として、①基礎薬学の講義コマ数の増加、②科目別試験の実施、(2)の具体的対策として、①特Cクラス講義の週4回（2回はAクラスと合同講義）の実施、②各総合試験での成績不良者のレポート提出、(3)の具体策として、卒業生への緊密な連携、などを実施してきましたが、結果的には余り効果はなかったといえます。

来年度第93回薬剤師国家試験には、新カリキュラムで履修した学生さんが受験しますので、本学の学部教育の真価が問われることになるとは思いますが、本年度の4年次生諸君は、新委員長の掛見先生の強力な御指導の下、「全員卒業、全員合格」を目指して頑張ってくれるものと大いに期待しております。

「紀要」の創刊にあたって

紀要編集委員長 加藤 義春

懸案の「大阪薬科大学紀要」を無事に創刊することができた。旧・教養論叢「ばいであ」が、本学全体の新たな「紀要」に止揚されるべく、27号をもって終刊となった後、「紀要」創刊準備の素案はほどなく固まったが、本学創立百周年記念事業を終え、薬学教育6年制への移行に伴う諸問題に対処し、刊行に向けての作業が始まったのはようやく昨夏のことであった。投稿を募り査読を経て採否を決定し、いざ編集校正作業を始めてからも試行錯誤の繰り返しで、ようやく3月19日付で上梓できた次第である。

本紀要創刊号は、巻頭を森下利明元教授の講演録「秋山卓爾先生の業績」で飾った。秋山先生は、大正末期、本学の廃校の危機に敢然と立ち向かい、粉骨砕身して我が国初の女子薬学専門学校を設立した、本学百年史上第一の功労者とも賞すべき人である。その功績と高潔な人柄を想起することは、本学構成員にとって不可欠のことであろう。

そして、第1部（総合科学系）に含蓄のある論文や示

唆に富む翻訳・計5本を、第2部（薬学系）には玄番・中元両先生の退職記念論文を始め、本学同窓会研究助成論文・博士論文を基とした種々の総説やノートなど計10本を収載して、多彩で興味ある論文集となったのではないだろうか。

出来上がった創刊号は、仕様や装訂も幸いに見栄えよく、多くの方々からお褒めと労いの言葉をいただいて編集委員一同、安堵の気持ちで一杯である。本学公式ホームページには既に4月より掲載されており、他大学・研究機関等への送付作業も6月中旬までには終える手筈で、本学教職員の研究内容の一端が広く研究者や社会一般に公開されることとなり、本学に対する学外の評価も新たな一項目を加えることになろう。

6月下旬からは、第2号の刊行準備に取りかかる予定であるが、巻を重ねるごとに更に豊かな内容となるよう、斬新な企画も念頭に置きつつ、しかし、紀要刊行がしつかりと根付くまでは着実に歩を進めたいと考えている。

平成18年度後期授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。本アンケート調査は、平成13年度から実施され、いくつかの改良を重ねつつ今日に至っております。現在、授業・実習評価アンケート調査は、本学における教員の自己点検・評価活動の中で極めて重要な項目に位置づけられています。

まず、今回実施しました授業評価アンケートの回収率は、全学年では51.8%であり、学年進行に伴い低下する傾向を示しました（1年次生、60.5%；2年次生、50.7%；3年次生、40.8%）。この低い回収率はアンケートの実施時期、および方法などがその一因であると思われる。現在、教務部委員会において、授業評価アンケート回収率の改善策、およびアンケート内容について検討しているところです。

次に、今回のアンケート結果においては、前回（平成18年度前期）と同様に、ほぼすべての項目で比較的高い数値が得られました。しかしながら、この結果は本学にとって決して満足できるものではありません。特に、設問項目11、12のポイントは、他の項目に比べて低く、今後、各教員が授業内容のレベル（到達目標）、および授業方法（方略）について真剣に再検討しなければならないことを示しているものと思われる。各教員がこの結果を真摯に受け止め、更なる授業の改善に努めていかなければならないと考えています。一方、学生の授業出席率は非常に高いものでありますが、今回のアンケート

結果において設問項目17はすべての項目の中で最も低い結果でした。そこで、学生諸君にお願いがあります。今後は漫然と授業に出席するのではなく、目的意識をもって授業に臨み、勉学に励むことを切に期待しております。

現在、アンケート結果は、全学年、または学年単位で公表されていますが、個々の教員についてのアンケート結果は学生に公表されていません。この点に関して、教務部委員会において議論しているところです。可能ならば、平成19年度において各教員のアンケート結果を何らかの形で学生に公表したいと考えています。本学の授業・実習評価アンケートの実施目的は、各授業・実習において教員が自己努力を惜まず、授業の改善に役立てることにあり、決して教員を誹謗中傷するものでないことは当然であります。また、学生の側から見れば、授業に対する取り組みや勉学に対する意欲の点検に活用されるべきでありましょう。

薬学教育6年制が平成18年度にスタートし、本年度で2年目を迎えます。社会の薬学教育に対する期待は非常に大きいことから、本学の教員は「教育の主役は学生である」ことを肝に銘じ、カリキュラム内容をはじめ教育活動の改善に日々努力しているところであります。教務部委員会は、学生にとって満足できる学習環境を提供できるよう、今後も努力していく所存であります。今後とも、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成18年度後期授業評価アンケート集計

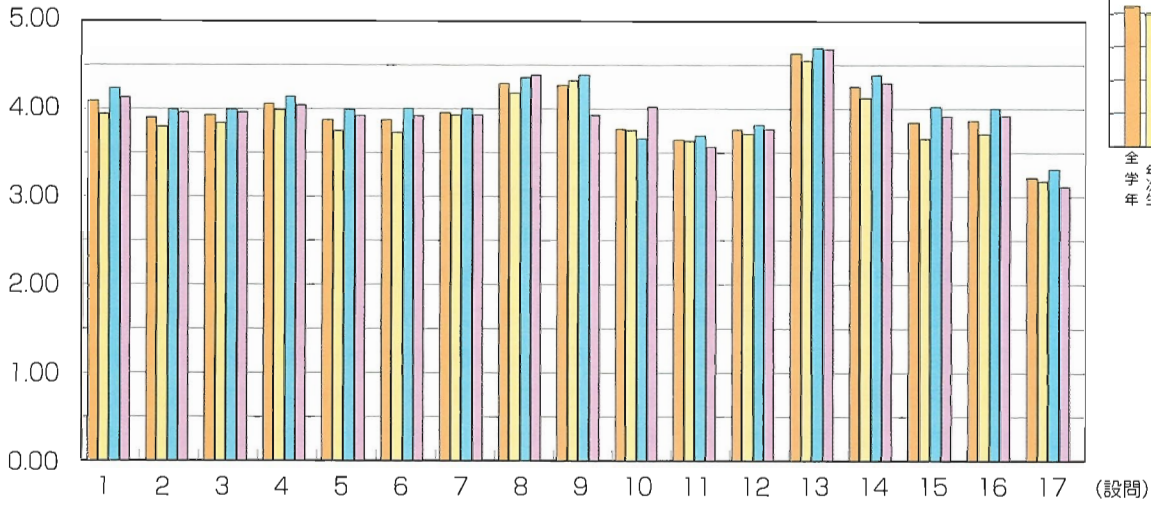
	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	12,601名	4,569名	4,913名	3,119名
延べ回答人数	6,529名	2,764名	2,491名	1,274名
回答率	51.8%	60.5%	50.7%	40.8%

回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。ただし、設問2、9、10については、0-該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

〔設問〕

- 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
- 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
- ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
- 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
- 授業は、説明が十分に理解しやすかったですか
- 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
- 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
- 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
- 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか（指定されていない場合は0を記入してください）
- 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか（休講がなかった場合は0を記入して下さい）
- 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください
(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
- この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
- あなたは、この授業によく出席しましたか
- あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
- この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
- この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
- あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

(平均値)



全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.09	38.5%	38.8%	16.8%	4.7%	1.1%	-	0.1%
2	3.90	31.4%	36.3%	22.5%	6.4%	1.9%	1.4%	0.2%
3	3.93	30.6%	39.4%	22.8%	5.4%	1.5%	-	0.3%
4	4.06	34.4%	39.0%	24.2%	1.2%	0.7%	-	0.5%
5	3.88	28.8%	39.0%	24.4%	5.8%	1.8%	-	0.2%
6	3.87	29.6%	36.7%	26.4%	5.2%	1.9%	-	0.2%
7	3.96	30.7%	39.3%	25.3%	3.4%	0.9%	-	0.3%
8	4.29	47.6%	36.8%	12.6%	2.0%	0.7%	-	0.2%
9	4.27	45.5%	27.4%	12.3%	2.8%	1.1%	10.6%	0.3%
10	3.77	8.3%	7.6%	9.5%	1.0%	1.0%	71.6%	0.8%
11	3.65	14.3%	38.4%	44.8%	1.8%	0.4%	-	0.4%
12	3.76	21.0%	41.9%	30.4%	5.0%	1.3%	-	0.4%
13	4.63	72.1%	19.9%	6.1%	1.1%	0.3%	-	0.5%
14	4.26	46.4%	35.6%	14.8%	2.1%	0.6%	-	0.5%
15	3.85	28.5%	36.7%	26.9%	5.3%	2.1%	-	0.5%
16	3.87	28.7%	37.6%	26.1%	5.2%	1.9%	-	0.5%
17	3.22	13.9%	22.7%	41.4%	14.1%	7.3%	-	0.6%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.94	31.4%	39.4%	22.2%	5.3%	1.6%	-	0.1%
2	3.79	29.4%	32.2%	26.4%	7.7%	2.6%	1.4%	0.3%
3	3.84	27.7%	38.4%	25.9%	5.7%	2.1%	-	0.4%
4	3.99	32.2%	36.8%	28.0%	1.4%	0.8%	-	0.8%
5	3.75	24.6%	37.3%	28.9%	6.4%	2.6%	-	0.1%
6	3.73	23.9%	36.1%	31.3%	5.8%	2.7%	-	0.2%
7	3.93	27.8%	41.4%	26.8%	2.8%	0.9%	-	0.3%
8	4.18	41.6%	38.9%	15.9%	2.4%	1.0%	-	0.2%
9	4.32	47.4%	27.6%	12.8%	1.5%	0.8%	9.6%	0.2%
10	3.76	9.6%	11.3%	11.9%	1.2%	1.3%	64.0%	0.7%
11	3.64	13.8%	39.9%	42.2%	2.7%	0.8%	-	0.5%
12	3.71	18.8%	42.1%	31.9%	4.9%	1.9%	-	0.5%
13	4.55	67.4%	22.2%	8.0%	1.7%	0.4%	-	0.3%
14	4.13	40.0%	36.4%	19.9%	2.8%	0.6%	-	0.3%
15	3.66	22.7%	32.9%	34.3%	6.7%	3.0%	-	0.4%
16	3.72	23.4%	35.9%	31.5%	6.1%	2.6%	-	0.4%
17	3.18	12.7%	22.1%	42.7%	14.2%	7.9%	-	0.4%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.23	46.0%	36.9%	12.0%	4.1%	0.8%	-	0.1%
2	4.00	34.2%	38.3%	18.5%	5.8%	1.5%	1.6%	0.1%
3	4.00	33.9%	39.4%	20.0%	5.3%	1.1%	-	0.2%
4	4.14	38.4%	39.3%	20.4%	1.0%	0.6%	-	0.2%
5	3.99	33.6%	39.7%	20.0%	5.2%	1.3%	-	0.2%
6	4.00	35.8%	36.5%	21.2%	4.9%	1.4%	-	0.1%
7	4.01	35.1%	36.0%	23.8%	4.0%	0.9%	-	0.2%
8	4.36	52.3%	34.2%	10.7%	2.0%	0.6%	-	0.2%
9	4.39	49.9%	26.7%	9.8%	2.0%	0.6%	10.9%	0.2%
10	3.66	6.1%	4.5%	9.2%	0.9%	0.8%	77.8%	0.8%
11	3.70	15.9%	39.3%	43.4%	1.2%	0.0%	-	0.1%
12	3.82	23.4%	42.0%	27.8%	5.6%	0.8%	-	0.3%
13	4.70	75.9%	18.1%	4.5%	0.6%	0.3%	-	0.6%
14	4.38	53.2%	33.3%	11.3%	1.1%	0.6%	-	0.6%
15	4.02	34.6%	38.5%	21.2%	3.6%	1.4%	-	0.6%
16	4.00	34.2%	37.9%	21.9%	4.1%	1.3%	-	0.6%
17	3.31	15.1%	24.4%	41.6%	13.0%	5.2%	-	0.7%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらか はそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.13	39.2%	41.0%	14.4%	4.5%	0.8%	-	0.2%
2	3.96	30.3%	41.0%	21.9%	4.7%	1.0%	0.8%	0.3%
3	3.96	30.5%	41.8%	21.7%	5.0%	0.8%	-	0.3%
4	4.05	31.6%	43.2%	23.0%	1.4%	0.4%	-	0.4%
5	3.92	28.7%	41.4%	23.0%	5.5%	0.9%	-	0.4%
6	3.92	30.0%	38.2%	25.7%	4.6%	1.0%	-	0.5%
7	3.93	28.4%	41.4%	24.9%	3.6%	1.1%	-	0.6%
8	4.38	51.2%	37.5%	9.2%	1.1%	0.5%	-	0.5%
9	3.93	32.9%	28.1%	16.0%	7.3%	2.8%	12.0%	0.9%
10	4.02	10.0%	5.9%	5.0%	0.8%	0.9%	76.1%	1.3%
11	3.57	12.2%	33.2%	53.0%	1.1%	0.1%	-	0.5%
12	3.77	20.9%	41.1%	32.3%	4.1%	1.1%	-	0.5%
13	4.68	74.6%	18.7%	5.2%	0.9%	0.1%	-	0.5%
14	4.29	47.3%	38.4%	10.4%	2.7%	0.7%	-	0.5%
15	3.91	29.0%	41.6%	21.8%	5.4%	1.6%	-	0.5%
16	3.92	29.4%	40.9%	22.6%	5.3%	1.3%	-	0.5%
17	3.12	14.1%	20.6%	38.1%	16.2%	10.4%	-	0.5%

平成18年度進路・就職状況について キャリアサポート部長 田中 一彦

平成18年度学部卒業生（54期生）、大学院博士前期（修士）課程修了者（31期生）の進路・就職状況について報告します。本学学生の進路・就職状況は昨年同様堅調に推移しています。学部卒業生の場合、特徴が3つあります。第1点目は、大学進学者が昨年同様30%を越え、進路・就職先の第1位であるという点です。第2点目は、MR職（医薬情報担当者）が6.6%で前年に比べ5%減少している点です。第3点目は、昨年同様公務員希望者・合格者が増加しており、厚生労働省検疫所や兵庫県、奈良県、山口県、尼崎市、京都市、静岡市、東大阪市等に就職しています。ちなみに卒業生257名の内訳は、薬局・ドラッグストア26.8%（前年25.9%）、病院・研修生22.2%（18.5%）、薬業関連企業11.3%（15.6%）、公務員5.8%（6.3%）、大学院進学30.0%（30.0%）、その他の各種学校1.6%（1.1%）、その他（就職を希望しない者）2.3%（2.6%）となっています（平成19年3月31日現在）。また、大学院博士前期（修士）課程修了者の就職もほぼ100%で、特に薬業関連企業63.6%（前年56.9%）、病院・研修生18.1%（17.6%）、公務員12.7%（11.8%）等です（平成19年3月31日現在）。

平成19年4月1日現在の薬科大学・薬学部は、国立

(表1)

平成18年度 学部卒業生(54期生)進路・就職状況

(平成19年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	合計	%	
薬局	25(18)	32.9%	44(52)	24.3%	69(70)	26.8%(25.9%)	
病院・診療所	4(3)	5.3%	43(31)	23.8%	47(34)	18.3%(12.6%)	
病院研修生	3(3)	3.9%	7(13)	3.9%	10(16)	3.9%(5.9%)	
薬業関連企業	(MR)	5(12)	6.6%	12(20)	6.6%	17(32)	6.6%(11.9%)
	(内勤)	(1)		12(9)	6.6%	12(10)	4.7%(3.7%)
公務員・教職員	3(6)	3.9%	12(11)	6.6%	15(17)	5.8%(6.3%)	
大学院進学 (博士前期課程)	33(38)	43.4%	44(43)	24.3%	77(81)	30.0%(30.0%)	
各種学校進学	3(0)	3.9%	1(3)	0.6%	4(3)	1.6%(1.1%)	
その他	(2)		6(5)	3.3%	6(7)	2.3%(2.6%)	
計	76(83)	100.0%	181(187)	100.0%	257(270)	100.0%(100.0%)	

※()内は、昨年3月31日現在を示す。

※「公務員・教職員」には、公立病院（薬剤師）4名（内、1名は非常勤）を含む。

(表2)

平成18年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(31期生) 進路・就職状況

(平成19年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	合計	%	
薬局	(2)		1(2)	3.4%	1(4)	1.8%(7.8%)	
病院・診療所	2(3)	7.7%	6(6)	20.7%	8(9)	14.5%(17.6%)	
病院研修生			2(0)	6.9%	2(0)	3.6%()	
薬業関連企業	(MR)	1(0)	3.8%	1(1)	3.4%	2(1)	3.6%(2.0%)
	(内勤)	18(9)	69.2%	15(19)	51.7%	33(28)	60.0%(54.9%)
公務員・教職員	5(2)	19.2%	2(4)	6.9%	7(6)	12.7%(11.8%)	
大学院進学他 (博士後期課程)	(2)		1(1)	3.4%	1(3)	1.8%(5.9%)	
その他	(0)	-	1(0)	3.4%	1(0)	1.8%()	
計	26(18)	100.0%	29(33)	100.0%	55(51)	100.0%(100.0%)	

※()内は、昨年3月31日現在を示す。

※「公務員・教職員」には、公立病院（薬剤師）4名（内、2名は非常勤）を含む。

(表1-1)

平成18年度 学部卒業生(54期生)の進路・就職先

■公務員・教職員

厚生労働省検疫所	2	岐阜市	1	東大阪市	1	南和歌山医療センター(非常勤)	1
兵庫県	2	京都市	1	岡山医療センター	1		
奈良県	1	静岡市	1	山口県立総合医療センター	1		
尼崎市	1	名古屋市	1	長浜市立病院	1	計	15

■薬業関連企業・その他

旭化成	1	クラヤ三星堂	1	田辺製薬	1	桃谷順天館	1
アストラゼネカ	1	興和	1	中外製薬	3	ロート製薬	1
乾商事	1	新日本科学	1	東和薬品	1		
イーザイ	3	スズケン	1	日本全薬工業	1		
大塚製薬	1	ゼネラル薬工粉河	1	久光製薬	1		
大塚製薬工場	1	大日本住友製薬	1	丸石製薬	1		
クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン	1	武田薬品工業	3	三菱ウェルファーマ	1	計	29

■病院

医真会八尾総合病院	1	周南記念病院(山口県)	1	永山病院	2	松山市民病院(愛媛県)	1
岡山中央病院	1	新日鐵広畑病院	1	中谷医科歯科病院	1	三重厚生連(JA)	1
香川労災病院	1	須佐病院	1	西京都病院	1	みどりヶ丘病院	1
鐘紡記念病院	1	鈴鹿回生病院	1	馬場記念病院	1	明舞中央病院	1
岸和田徳洲会病院	1	誠佑記念病院	1	阪南中央病院	1	守口生野記念病院	2
京都武田病院	2	蘇生会総合病院	1	東大阪病院(大阪市)	1	安来第一病院(島根県)	1
協立病院	1	清恵会病院	1	朋愛病院	1	山口赤十字病院	1
近畿大学医学部附属病院	1	田北病院(奈良県)	1	邦和病院	1	行岡病院	1
倉敷中央病院	1	都志見病院(山口県)	1	松阪厚生病院	1	西神戸医療センター(嘱託職員)	1
厚生会第一病院	2	巖生会脳神経外科病院	1	松阪中央総合病院	1	大阪大学医学部附属病院(非常勤)	1
済生会吹田病院	1	寺元記念病院	1	松下記念病院	1	計	47

■薬局・小売

アインファーマシーズ	1	神代薬局(佐賀県)	1	高田薬局	1	富士バイオメディックス	1
青木薬局(佐賀県)	1	クラフト	2	たんぼぼ薬局	2	ベル企画(高知県)	1
アカカベ	1	ココミン	2	津山調剤薬局	1	朋和会薬局(山口県)	1
アライドハーツ・ホールディングス	3	サンドラッグ	3	テラ・ヘルスプロモーション	1	松調企画(長崎県)	1
アルカ	2	サンブラザ加地	3	トブコ(香川県)	2	メディカルー光	2
育星会	2	祥漢堂	1	南予調剤(愛媛県)	1	メディテック	1
オーパス	8	スギ薬局	3	日本調剤	3	ゆう薬局グループ	1
京都シグマプラン	1	セガミメディクス	3	阪神調剤薬局	3		
キリン堂	1	泉州保健医薬研究所	1	ファーマシィ(広島県)	1		
薬日本堂	1	総合メディカル	1	ファーマライズ	2		
クスリのアオキ	1	大新堂	1	ファーマル(高知県)	1	計	69

■大学院(博士前期課程)進学・その他各種学校進学

大阪薬科大学	57	京都大学	3	東京大学	1	各種学校	4
大阪大学	7	九州大学	1	名古屋大学	1		
岡山大学	2	熊本大学	1	北海道大学	1		
金沢大学	1	神戸大学	1	京都薬科大学	1	計	81

■病院研修生

大阪大学医学部附属病院	4	京都大学医学部附属病院	2	滋賀医科大学附属病院	2	奈良県立医科大学附属病院	1
三重大学医学部附属病院	1					計	10

(表2-2)

平成18年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(31期生)の進路・就職先

■公務員・教職員

三重県	1	国立循環器病センター(非常勤)	1
西宮市	2	京都医療センター(非常勤)	1
大阪府病院機構	1		
高知医療センター	1	計	7

■薬局・小売

大阪薬科大学附属薬局	1
計	1

■薬業関連企業・その他

アステラス製薬	1	三栄源エフ・エフ・アイ	1	ニプロ	1
天藤製薬	1	参天製薬	1	ニプロファーマ	1
アルフレッサファーマ	1	新日本科学	1	日本ケミカルリサーチ	2
イーザイ	1	スズケン	1	日本製薬	1
小野薬品工業	3	全薬薬品工業	1	日本たばこ産業	1
キッセイ薬品工業	1	大鵬薬品工業	1	日本バイオリサーチセンター	1
クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン	1	大洋薬品工業	1	ビオフェルミン製薬	1
クラヤ三星堂	1	大同薬品工業	1	マルホ	1
神戸天然物化学	1	中外製薬工場	1	ライオン	1
沢井製薬	1	東和薬品	2		
荊盛堂薬品	1	富山化学工業	1	計	35

■病院

太田記念病院(広島県)	1	邦和病院	1
紀和病院	1	淀川キリスト教病院	1
近畿大学医学部堺病院	1	香川大学医学部附属病院(非常勤)	1
高槻病院	1		
西陣病院	1	計	8

■病院研修生

大阪大学医学部附属病院	2
計	2

■大学院(後期課程)進学・その他

琉球大学医学部(編入)	1
計	1

平成17年度から、本公開教育講座では「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度も引き続き同じテーマで開催することにし、高齢化社会の到来を念頭に置いて、「呼吸器疾患」「脳血管系疾患」「自己免疫疾患」について、3回にわたって開催いたします。

平成19年度公開教育講座

「薬の作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」

第45回 5月19日(土)14:00～17:35

①「アスベスト吸入による健康障害～肺・胸膜の疾患～」

国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター

院長 坂谷光則 先生

②「肺癌の化学療法と薬剤」

高槻赤十字病院

副院長／呼吸器外科部長 千葉 渉 先生



坂谷先生



千葉先生

第46回 7月14日(土)14:00～17:35

①「パーキンソン病治療薬研究の現状と今後」(予定)

大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室

准教授 大野行弘 先生

②「パーキンソン病の治療と注意すべき副作用」(予定)

愛媛大学大学院医学研究科 病態治療内科 教授／

創薬・育薬センター センター長 野元正弘 先生

第47回 12月1日(土)14:00～17:35

①「リウマチについて」(予定)

大阪医科大学 整形外科教室 准教授 中島幹雄先生

②「リウマチについて」(予定)

大阪医科大学 第一内科学教室 学内講師 武内 徹先生

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト36階

会議室L・R

平成19年度市民講座

大阪薬科大学市民講座は、これまで数年に亘り、馬場教授を中心に活発な講演活動を行って来ました。そのお蔭で、大阪薬科大学の市民講座が多くの方々に広く親しまれ、大学における対外的な活動の成功例の一つとして定着して来ました。この度、平成19年度の市民講座委員長を仰せつかり、今年度もまた、多くの市民に親しまれる、有益な講演会を開催することができるように、市民講座委員の先生方(田中(-)、濱中、松島、高岡の各教授、および谷口准教授、西野講師)ならびに協力研究室(薬品合成化学研究室、生化学研究室)、事務局の方々とともに努力する所存ですので、どうぞ宜しく御協力・御支援の程、お願い致します。

今年度は、5月26日(土曜)に第23回の「がんの早期発見・治療と緩和ケアについて」において、「生活習慣関連病としてのがんの予防と早期発見」という演題で姫野誠一先生(芦屋市立芦屋病院院長)に、また「がん医療における緩和ケアの役割」という演題で岡田圭司先生(高槻赤十字病院緩和ケア科部長)に御講演をいただき、成功裡に終了することができました。また、10月20日(土曜)に開催予定の第24回の「アロマテラピー」では、「アロマテラピーと癒し」(仮題)について中島基貴先生(塩野香料株式会社特別顧問)、ならびに「アロマテラピーの実際」(仮題)について実際に患者さんの治療に当たられている山本淑子先生(アロマラボ株式会社)にお願

いすることになりました。

さらに、地元の薬剤師会の先生方に御協力をお願いして、「くすりの相談室」をこれまでと同様に開設しています。前年度までの市民講座におけるアンケート調査の結果、参加者は高槻市民約75%、茨木市民6～7%を中心に、300～350名の方々からなり、男女ほぼ同数でした。また、何回か続けて参加される方が多く、年齢層は60、70歳代の方が75%、50歳代が10%前後と、高齢の方が多くを占めています。前年度の委員会からの申し送りおよびアドバイスとして、講演会の内容を「病気に関する内容に限定せずに薬全般から人生設計など広いテーマで」というお話がありました。これを踏まえ、今年度の委員会で協議して、第23、24回は上記の2つのテーマで開催を計画しました。次回の第24回も是非多数の御参加をお待ちしております。本学の教職員や学生、ならびにその御家族の皆様方も、この機会に市民講座に御出席下さいますよう、期待しております。



姫野先生



岡田先生

平成18年度に文部科学省が募集した私立大学等研究設備整備費等補助金対象に、本学大型共同教育研究機器として申請した次の装置が採択されました。この装置は本年3月末日までに共同研究センター第三測定室内に導入、完備され、現在広く利用されています。

○「液体クロマトグラフィー・質量分析システム」

本システムは、測定前段階において対象物質の分離を行う「耐超高压型高速液体クロマトグラフィー (UPLC)」部および定量的質量分析を行う「マスマスペクトロメーター (MS/MS)」より構成されています。現在、レセプター、トランスポーター、チャネル等のタンパク質構造解析技術の目覚ましい進歩に伴い、医薬品の創薬戦略が大きく変化しつつあります。すなわち、従来の医薬品と比較して格段にレセプター等の標的部位との結合親和性が高く、微量で効果の高い医薬品の創製が可能となっています。したがって、副作用あるいは毒性に関する研究は、従来の医薬品にも増して重要視されています。一般に、これら副作用、毒性についての研究は、薬物投与後の血液、組織あるいは尿中等の薬物あるいはその代謝物の濃

度を測定し、解析されるのが基本ですが、投与量が極微量であるため、これら生体サンプル中の薬物濃度を測定することは極めて困難であります。したがって、近年に開発された医薬品を安全にかつ効果的に薬物療法に応用するための情報を得るためには、血液、組織、尿等の生体試料中における極めて微量の薬物やその代謝物を定量的に測定することが不可欠となります。今回、このような背景のもと、極めて微量の医薬品あるいは医薬品候補化合物の定量分析を可能にする本システムが導入されました。今後、本学における新規医薬品の創製、医薬品の副作用、および毒性の予測法の確立に関する研究の飛躍的な進展が期待されます。



学生相談室からのメッセージ

学生相談室相談員 二宮 ひとみ

入学や進級のシーズンである4月は気持ち新たにになります。学業面ではより一層高度な課題に取り組み、クラブ活動では後輩が増えて責任を持つ場面が増えます。何かにつけて不安と期待の入り混じる、複雑な感情を実感する時期です。

このような時期には誰も目標を立てたくありません。ささいなことでも目標を立てると、自分の向かうべき方向性が見えてきますので、目標を見直すことも大事です。目標は4月に立てなければならぬものではありません。8月でも12月でも、個人的な節目に目標を立ててもかまいません。「思い立ったが吉日」です。

しかし、目標の立て方には少し注意を要します。誰も自分の理想に近づきたいものですが、理想をそのまま目標にすると、達成するのが非常に困難になりかねません。これでは、せっかく気持ちを新たににしたのに、やる気が失われます。目標に達成できない自分を責めたり、自信を失ったりする場合もあります。

大きな目標は心の片隅に置いておき、小さな目標を立ててはいかがでしょうか。思い切って目標のレベルを下げてみるのです。階段を一段ずつ上るように、達成するたびに少しずつレベルを高くすることが、大きな目標達成へのコツとなるかと思えます。大きな目標達成にこだわると、無理をしすぎて自分らしさが失われます。無理が利かないときは、少し目標のレベルを下げてみてはいかがでしょうか。

学生相談室では、このような目標の立て方など、どんなささいなことでも相談員と一緒に考えていきます。学生の方々が自分らしさを大切に学生生活を過ごせるように、私ども相談員は陰ながら応援しております。

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00
相談場所：本部・図書館棟1階「学生相談室」
tel：(072)690-1077 (直通)
mail：counsel@gly.oups.ac.jp

私は、平成17年10月より平成18年12月末まで、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (The University of North Carolina at Chapel Hill: UNC) のK.H. Lee (李 國雄) 教授の天然物研究部門に留学し、この度、帰国いたしましたので御報告申し上げます。今回、貴重な機会を与えていただいた矢内原理事長、栗原学長を始め、本学の諸先生方にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

私は、一昨年3月末頃に、当時同大学に御留学中の本学生薬学教室の谷口先生から今回のお話を頂き、二つ返事でお受けすることにしました。私は、当時4x歳で、留学などはもうチャンスがないだろうと諦めておりましたので、これが最初で最後のチャンスであると思ったからです。正式交渉は、6月から始まり、順調に準備を進めて、家族全員のパスポートの取得、国際免許の取得、VISAの申請のための面接の予約をこなしました。しかし、十分余裕を見ていたつもりであったにもかかわらず、VISA申請に必要なDS2019という書類が届きません。領事館の面接予約は8月24日で、その3日前の4時迄にSEVISの\$100をアメリカ政府に払った証明が必要です。21日のお昼過ぎに本学に書類は届きました。まさに綱渡りであります。

仲間の皆さんに見送られて関空を飛び立ち、シカゴで入国審査、飛行機を乗り継ぎ、ノースカロライナ州のローリー・ダーラム空港にたどり着き、谷口先生に出迎えて頂きました。最初の1週間は、生活の立ち上げに必死でしたが、思い返せば、実は、この頃が一番excitingで面白かったのです。実生活面で自分の力が通用するかが問われたからです。

さて、ここから肝心の研究について少々述べたいと思います。ノースカロライナ州、リサーチトライアングル (RTP)、Chapel Hill、UNC、Lee研究室の実績や研究体制については、昨年の学報において谷口先生が詳しくお書きになっておられますので、本文では割愛します。Lee先生は、私の恩師、富士 薫 京都大学名誉教授 (現広島国際大学薬学部学長) と京都大学大学院修士課程でクラスメートだったそうで、また、親日家の先生に私は、温かく迎えられ、研究室の仲間にも、とても親切にしてくださいました。私が行った頃には、研究室を4つの部門に分割して、Natural Products Research Laboratories (NPRL) と改称され、私は、Visiting Assistant Professorという肩書で、研究、学生の指導?の義務を負いました。具体的な研究内容は、以下のようにならめられます。

課題：「臨床試験候補化合物となる植物中の抗HIV および抗がん作用を有する成分の単離、構造決定および合成に関する研究」

1. NCI (National Cancer Institute) 提供の植物 *Quassia glauca* エキスより、LCMS-ITTOFを用いる新規化合物予測、単離に関する研究の起動。
2. 同じくNCIより提供された *Odyendae gabonensis* の顕著な抗乳癌活性化合物の研究。
3. アメリカ産人参主成分トリテルペノイド類の単離とその誘導体化およびその生理活性。
4. 抗がん剤耐性細胞に対し抗がん作用を復活させる化合物の単離、構造決定。
5. Podopyllotoxin-camptothecin conjugateの合成についての検討。

未発表の研究ですので、構造式を提示できないのが残念ですが、このうち2番目、4番目の研究については、論文の原稿を残して来ることができました。その4番目の仕事は、Dr. Ken Bastowという髭もじの凄なおっさん (生理活性担当) に、私は、毎日、今日は何か新しいことはあるか?とラッシュされ続け、彼とたくさん討論したことを思い出します。3番目の仕事は、谷口先生と2か月間、朝から晩まで必死で働き、先生が御帰国後、主成分であるginsenoside Rb1のほぼ純品を約22 g得ました。この化合物は、シグマアルドリッチのカタログ上、5mg でおおよそ\$200 する代物です。人参に関しては、メリーランドの島津の研究所がLCMS-ITTOF関連の仕事昨年5月のアメリカの質量分析学会で発表しており、谷口先生と私は、共同研究者として名を連ねております。昨年の4月に本学の芝野先生が、続いて来られ、私の残した仕事を引き継いで頂きました。研究室には、アルカロイドの研究で世界的に有名なArnold Brossiが現役の教授として数カ月に一度お見えになり、彼は、藤田榮一先生 (元本学学長) とは旧知の間柄であり、私は、最後の門下生でありましたので、大変親しくして頂きました。また、同時期に元東京薬科大学の糸川秀治先生、元東京大学、元三共の秋山敏行先生という著名なおふた方が客員教授として赴任され、御一緒することができ、とても勉強になりました。ただ、UNCの研究室そのものは、古く、設備面では大阪薬科大学の方がむしろ上回っていることも多々ありました。また、何十年かぶりにUNCの学生に混じり、Lee先生の医薬品化学の講義を聴くことができたことも大きな収穫です。学生達の真剣な態度にも感銘を受けましたが、何よりも臨床試験にかかった3つの化合物開発の実績を持つLee先生

のお話は、日本では絶対聞けないものでした。例えば、アメリカには軍があるため、ベトナム戦争の時に抗マラリア薬の開発は、政府にとって重要事項でありましたので、莫大な予算が研究に投入されたとか、そういった政治と科学の研究の真実の姿を垣間見ることができました。Lee先生は、その時、決まって“This is the true story.”という言い方をされていました。

伝えたいことが山ほどありますが、残念ながら紙面が無くなってしまいました。私事を少々。家族全員、存分にアメリカをenjoyしました。私自身、この期間でかなり若返ったように思います。子供達も、初めは英語が解らなくて毎日泣いていましたが、1年少々で見違えるように逞しくなりました。少ない休みを利用して旅行もし

ました。私のお気に入りの写真をお見せしましょう。アーチズ国立公園（Utah州）のデリケートアーチを目指して歩く私達です。子供達は、私達夫婦（長い影）を気にせずにとんどん先を進みます。これが、私達の将来の姿なんだなあと家内と喋っていたところです。大阪薬科大学の学生にこんな風になって欲しいものだと思います。先生達にただついて行くのではなく、目的と責任感を持って、自分でしっかり歩いて欲しい。私たち教職員は、そのお手伝いはできます。

*Your dreams come true when you keep doing your best.
Have great days in Osaka University of Pharmaceutical Sciences!*



Lee研究室のメンバーと



Beard Hall前にて



実験風景



Arches国立公園にて

■平成18年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成18年度決算については、平成19年5月28日（月）に開催された理事会及び評議員会において承認されたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明する。

（資金収支計算書）

主な収入源である学生生徒等納付金収入が、在籍学生数増により、予算を1億1,953万円上回った。また、主な支出源である人件費支出が、予算を8,470万円下回った。その結果、次年度繰越支払資金は21億3,765万円となった。

（消費収支計算書）

平成18年度の消費収支は、予算より改善され、消費収入超過額は4億3,682万円であり、翌年度繰越消費収入超過額は14億2,745万円となった。

（貸借対照表）

平成18年度資産総額は、17年度に比して2億7,790万円増加し、224億1,860万円となった。負債総額は借入金元金の減少等から、17年度に比して3億9,730万円減少し、36億756万円となった。

■平成19年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成19年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、平成19年3月22日（木）に開催された理事会及び評議員会において承認されたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明する。

（総括）

平成19年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は35億5,850万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は33億9,860万円であり、差引き1億5,990万円の収入超過となる。

<収入の部>

（学生生徒等納付金収入）

学部新入生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料16億1,800万円、入学金1億6,900万円、施設設備費7億6,020万円他を計上した。

（補助金収入）

私立大学等経常費補助金2億2,100万円、施設整備費補助金2,500万円他を計上した。

（事業収入）

附属薬局の収入予算5億200万円他を計上した。

<支出の部>

（人件費支出）

教員人件費は新採用、昇任人事を含め9億2,930万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め4億7,540万円、退職金は4,820万円他を計上した。

（教育研究経費支出）

大阪薬科大学奨学金（特待奨学金・一般奨学金）590万円、紀要350万円、一般事務アウトソーシング（学内ネット等管理含）1,911万円、研究棟（動物関連研究施設、空調機関係他）関係の修理費1,589万円他を計上した。

（管理経費支出）

一般事務アウトソーシング1,482万円、附属薬局の物件費4億5,490万円他を計上した。

（施設関係支出）

建設仮勘定支出として、新学舎設計料、建設着手金他を含め、1億110万円を計上した。

（設備関係支出）

附属薬局レセプトコンピュータ機器更新費、処方せん解析システム、電光投薬表示システム、計1,560万円を計上した。

（その他の支出）

大阪薬科大学奨学金貸付金（一般奨学金）700万円他を計上した。

■平成18年度決算

平成18年度 資金収支計算書 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで (単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,485,600	2,605,130	△ 119,530
手数料収入	81,200	109,965	△ 28,765
寄付金収入	15,000	20,370	△ 5,370
補助金収入	292,100	330,646	△ 38,546
国庫補助金収入	289,000	330,526	△ 41,526
高槻市緑樹緑費補助金収入	100	120	△ 20
その他の補助金収入	3,000	0	3,000
資産運用収入	40,000	81,068	△ 41,068
資産売却収入	13,000	1,077,800	△ 1,064,800
事業収入	485,500	512,678	△ 27,178
雑収入	83,100	80,192	2,908
前受金収入	412,000	529,700	△ 117,700
その他の収入	258,900	624,521	△ 365,621
資金収入調整勘定	△ 597,900	△ 718,165	120,265
前年度繰越支払資金	2,413,600	2,304,644	
収入の部合計	5,982,100	7,558,549	△ 1,576,449

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,548,100	1,463,395	84,705
教育研究経費支出	566,900	528,082	38,818
管理経費支出	527,000	563,335	△ 36,335
借入金等利息支出	116,400	116,342	58
借入金等返済支出	344,500	344,430	70
施設関係支出	13,100	16,661	△ 3,561
設備関係支出	183,600	145,083	38,517
資産運用支出	1,300	2,186,087	△ 2,184,787
その他の支出	196,500	192,247	4,253
[予備費]	(12,600)	-	27,400
資金支出調整勘定	△ 170,200	△ 134,769	△ 35,431
次年度繰越支払資金	2,627,500	2,137,656	489,844
支出の部合計	5,982,100	7,558,549	△ 1,576,449

※予備費 12,600の使用額は、施設関係支出 12,600である。

平成18年度 消費収支計算書 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで (単位：千円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,485,600	2,605,130	△ 119,530
手数料	81,200	109,965	△ 28,765
寄付金	15,000	24,838	△ 9,838
補助金	292,100	330,646	△ 38,546
国庫補助金	289,000	330,526	△ 41,526
高槻市緑樹緑費補助金収入	100	120	△ 20
その他補助金	3,000	0	3,000
資産運用収入	40,000	81,068	△ 41,068
資産売却差額	12,400	13,019	△ 619
事業収入	485,500	512,678	△ 27,178
雑収入	83,100	80,192	2,908
帰属収入合計	3,494,900	3,757,536	△ 262,636
基本金組入額合計	△ 275,400	△ 238,387	△ 37,013
消費収入の部合計	3,219,500	3,519,149	△ 299,649

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,510,400	1,454,200	56,200
教育研究経費	955,200	918,661	36,539
管理経費	563,100	583,919	△ 20,819
借入金等利息	116,400	116,342	58
資産処分差額	0	9,207	△ 9,207
[予備費]	(0)	-	40,000
消費支出の部合計	3,185,100	3,082,329	102,771

当年度消費収入超過額	34,400	436,820	
前年度繰越消費収入超過額	989,600	990,633	
翌年度繰越消費収入超過額	1,024,000	1,427,453	

貸借対照表 平成19年3月31日 (単位：千円)

資産の部			
科目	平成18年度末	平成17年度末	増減
固定資産	18,980,244	19,068,246	△ 88,002
有形固定資産	15,323,230	15,585,362	△ 262,132
土地	8,721,420	8,721,999	△ 579
建物	4,597,790	4,845,294	△ 247,504
その他の有形固定資産	2,004,020	2,018,069	△ 14,049
その他の固定資産	3,657,014	3,482,884	174,130
流動資産	3,438,364	3,072,458	365,906
現金預金	2,137,656	2,304,644	△ 166,988
その他の流動資産	1,300,708	767,814	532,894
資産の部合計	22,418,608	22,140,704	277,904

負債の部			
科目	平成18年度末	平成17年度末	増減
固定負債	2,619,602	2,973,228	△ 353,626
長期借入金	1,811,010	2,155,440	△ 344,430
その他の固定負債	808,592	817,788	△ 9,196
流動負債	987,965	1,031,643	△ 43,678
短期借入金	344,430	344,430	0
その他の流動負債	643,535	687,213	△ 43,678
負債の部合計	3,607,567	4,004,871	△ 397,304

基本金の部			
第1号基本金	17,097,588	16,874,200	223,388
第3号基本金	85,000	70,000	15,000
第4号基本金	201,000	201,000	0
基本金の部合計	17,383,588	17,145,200	238,388

消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,427,453	990,633	436,820
消費収支差額の部合計	1,427,453	990,633	436,820
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	22,418,608	22,140,704	277,904

財産目録 平成19年3月31日

	(単位：千円)
I 資産総額	22,418,608
内 基本財産	15,334,651
運用財産	7,083,957
II 負債総額	3,607,567
III 正味財産	18,811,041

(単位：千円)

区 分	金 額	
資産額		
1基本財産	15,334,651	
土地	59,259.53㎡	8,721,420
建物（付属設備を含む）	28,527.75㎡	4,597,790
図書	86,095冊 1,590巻	1,201,206
構築物・機器備品	1,542点	801,208
その他	13,027	
2運用財産	7,083,957	
現金預金	2,137,656	
その他	4,946,301	
資 産 総 額	22,418,608	

区 分	金 額	
負債額		
1固定負債	2,964,032	
長期借入金	2,155,440	
その他	808,592	
2流動負債	643,535	
負 債 総 額	3,607,567	
正 味 財 産（資産総額-負債総額）	18,811,041	

注記 固定負債長期借入金について
貸借対照表では、平成19年度期中において、返済予定のものは、短期借入金としている。

監査報告書

平成19年 5月22日

学校法人 大阪薬科大学
理事長 矢内原千鶴子 殿

学校法人 大阪薬科大学
監事 露口佳彦
監事 吉田訓康

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成18年度（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

■平成19年度予算

平成19年度 資金収支予算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで (単位：千円)

収入の部			
科 目	平成19年度予算	平成18年度予算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,549,200	2,485,600	63,600
手数料収入	81,100	81,200	△ 100
寄付金収入	15,000	15,000	0
補助金収入	247,600	292,100	△ 44,500
国庫補助金収入	247,500	289,000	△ 41,500
高槻市総務課補助金収入	100	100	0
その他の補助金収入	0	3,000	△ 3,000
資産運用収入	40,000	40,000	0
資産売却収入	0	13,000	△ 13,000
事業収入	508,500	485,500	23,000
雑収入	43,700	83,100	△ 39,400
前受金収入	452,000	412,000	40,000
その他の収入	217,100	258,900	△ 41,800
資金収入調整勘定	△ 595,700	△ 597,900	2,200
前年度繰越支払資金	2,064,400	2,413,600	△ 349,200
収入の部合計	5,622,900	5,982,100	△ 359,200

支出の部			
科 目	平成19年度予算	平成18年度予算	差 異
人件費支出	1,474,900	1,548,100	△ 73,200
教育研究経費支出	578,700	566,900	11,800
管理経費支出	561,000	527,000	34,000
借入金等利息支出	99,400	116,400	△ 17,000
借入金等返済支出	344,500	344,500	0
施設関係支出	103,700	13,100	90,600
設備関係支出	166,000	183,600	△ 17,600
資産運用支出	0	1,300	△ 1,300
その他の支出	181,900	196,500	△ 14,600
[予備費]	40,000	(12,600)	12,600
資金支出調整勘定	△ 151,500	△ 170,200	18,700
次年度繰越支払資金	2,224,300	2,627,500	△ 403,200
支出の部合計	5,622,900	5,982,100	△ 359,200

平成19年度 消費収支予算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで (単位：千円)

消費収入の部			
科 目	平成19年度予算	平成18年度予算	差 異
学生生徒等納付金	2,549,200	2,485,600	63,600
手数料	81,100	81,200	△ 100
寄付金	15,000	15,000	0
補助金	247,600	292,100	△ 44,500
国庫補助金	247,500	289,000	△ 41,500
高槻市総務課補助金収入	100	100	0
その他補助金	0	3,000	△ 3,000
資産運用収入	40,000	40,000	0
資産売却差額	0	12,400	△ 12,400
事業収入	508,500	485,500	23,000
雑収入	43,700	83,100	△ 39,400
帰属収入合計	3,485,100	3,494,900	△ 9,800
基本金組入額合計	△ 554,500	△ 275,400	△ 279,100
消費収入の部合計	2,930,600	3,219,500	△ 288,900

消費支出の部			
科 目	平成19年度予算	平成18年度予算	差 異
人件費	1,451,200	1,510,400	△ 59,200
教育研究経費	988,300	955,200	33,100
管理経費	596,400	563,100	33,300
借入金等利息	99,400	116,400	△ 17,000
[予備費]	40,000	40,000	0
消費支出の部合計	3,175,300	3,185,100	△ 9,800
当年度消費支出超過額	244,700	0	244,700

当年度消費収入超過額	0	34,400	△ 34,400
前年度繰越消費収入超過額	1,348,400	989,600	358,800
翌年度繰越消費収入超過額	1,103,700	1,024,000	79,700

総務課だより

■ 人 事

<大学関係>

採 用 (平成19年2月1日付)

薬 劑 師 坪井 智子
薬 劑 師 武居 睦子
(平成19年4月1日付)
准 教 授 大野 行弘
講 師 藤森 功
講 師 大喜多 守
事務局長 田部 信重
事務職員 浅原久美子
事務職員 中角 有希
事務職員 中野 葉月
特別研修薬剤師 疋田 裕子

退 職 (平成18年12月27日付)

事務職員 中尾由起子
(平成19年2月26日付)
薬 劑 師 濱崎 美佳
(平成19年3月31日付)
教 授 千熊 正彦 (定年)
教 授 木村捷二郎 (定年)
助 教 授 中元 安雄 (定年)
事務局長 肥塚 敏彰 (定年)
(平成19年4月20日付)
事務職員 崎山 祐子

昇 任 (平成19年4月1日付)

教 授 楠瀬 健昭
准 教 授 谷口 雅彦
准 教 授 友尾 幸司
事務局次長補佐 秋月 延夫 (施設課長兼務)
健康管理支援室長 辻 悦子
係 長 山之内右

併 任 (平成19年1月1日付)

共同研究センター長 石田 寿昌 (教授)
(平成19年2月1日付)
薬用植物園長 馬場きみ江 (教授)
(平成19年4月1日付)
教務部長 辻坊 裕 (教授)
学生部長 藤田 芳一 (教授)
情報システム管理支援室長 秋月 延夫 (施設課長)
(平成19年4月12日付)
大学院博士後期課程担当教員 谷口 雅彦 (准教授)
大学院博士後期課程担当教員 友尾 幸司 (准教授)
大学院博士前期課程担当教員 大野 行弘 (准教授)
大学院博士前期課程担当教員 藤森 功 (講 師)

配置換え (平成19年4月1日付)

施設課長兼務 秋月 延夫 事務局次長補佐
(入試・広報課長)
入試・広報課長 福永 治久 (施設課長)
図書課課長補佐 吉田 弘子 (就職課課長補佐)
研究管理支援室長 澤田あつ子 (図書課課長補佐)

委 嘱 (平成19年4月1日付)

教 授 池田 潔 (嘱託)
教 授 坂田 勝治 (嘱託)
教 授 千熊 正彦 (嘱託)
客員教授 小林 祐次
客員助教 西 義則
用 務 員 喜村留美子 (嘱託)
校 医 柚木 孝士 (非常勤)
学生相談室相談員 岡 鈴佳 (非常勤)
学生相談室相談員 二宮ひとみ (非常勤)
(平成19年5月1日付)
学生相談室顧問 米田 博 (非常勤)

解 嘱 (平成19年3月31日付)

教 授 玄番 宗一 (嘱託)
用 務 員 神田 実 (嘱託)

招へい教授 (平成19年4月1日付)

濱 六郎 (客員研究員)
Tzyh-Chang Hwang (客員研究員)

客員研究員 (平成19年4月1日付)

米田 誠治
濱 六郎
相馬 義郎
Tzyh-Chang Hwang

非常勤講師 (平成19年4月1日付)

[学部]

伊藤 信也 (人間と文化4b)
小松 敏彦 (健康科学演習)
谷口 智美 (フランス語1、2)
鶴 真一 (フランス語4)
土居 俊平 (人間と文化1a)
戸田 有一 (人間と文化1b)
中川 俊正 (病原微生物学)
中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語4)
橋口 雅美 (健康科学演習)
林 恭平 (医療統計学)
樋口 久 (英語1)
榎矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2)
吉田龍太郎 (分子免疫学)
Joseph Michael Jacobs (英語3)
Judith Lynn Ritter (英語3)
宮田 真希 (健康科学演習) (非常勤助手)
門川 裕美 (健康科学演習) (非常勤助手)

[大学院]

上野 和行 (臨床医学Ⅲ (臨床薬剤学Ⅱ))
中出 進 (臨床薬物動態学Ⅱ)
濱 六郎 (薬剤疫学)
林 哲也 (病態生理学Ⅰ)
藤田 譲 (臨床心理学)
光木 徹 (臨床医学Ⅱ)
吉栖 正典 (薬効安全性学 (医療薬学Ⅱ))

<法人関係>

理事・評議員退任 (平成19年3月31日付)

千熊 正彦

評議員退任 (平成19年3月31日付)

肥塚 敏彦

理事就任 (平成19年4月1日付)

土井 勝

評議員就任 (平成19年4月1日付)

加藤 義春

(平成19年4月24日付)

田部 信重

■ 事務組織の名称変更等について

平成19年4月1日付で就職課をキャリアサポート課、保健室を健康管理支援室に名称変更し、研究管理支援室を新設しました。

■ 学位記授与式

平成19年3月17日(土)午前10時30分より体育館において、平成18年度大阪薬科大学学位記授与式(学部257名、大学院博士前期(修士)課程55名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。

■ 同窓会賞の贈呈

学部卒業生のうち、各学科の成績最優秀者(薬学科 木村敬子、製薬学科 田笠慶子)に対し、本学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました。

■ 入学式

平成19年4月4日(水)午前10時30分より体育館において、平成19年度大阪薬科大学入学式(学部308名、大学院博士前期(修士)課程58名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。

■ 海外出張

恩田 光子 講師 (臨床実践薬学研究室)

<期間:平成19年1月15日~平成19年1月21日>

平成18年度薬剤使用状況等に関する調査研究(アメリカ)

宮崎 誠 講師 (薬剤学研究室)

<期間:平成19年4月21日~平成19年4月27日>

Pharmaceutical Sciences World Congress 2007

出席、発表(オランダ)



学位記授与式



入学式

■ 実験動物慰霊祭

平成18年12月13日(水)午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われました。

■ 大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター

平成18年度公開シンポジウム

平成18年12月9日(土)午前11時より、本学において、大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター平成18年度公開シンポジウム「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」が下記のプログラムにて開催されました。途中、ポスターセッションもあり、盛況裏に終了しました。

1. 演題「フランス海岸松ポリフェノール成分フラバンジェノールに関する薬理学的研究」
演者 大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター専従ポストドクター 大喜多 守

2. 演題「アントロピー項に注目した核内レセプターとリガンドとの分子間相互作用解析—転写制御因子を標的としたドラッグデザイン」
演者 大阪薬科大学ハイテク・リサーチ・センター専従ポストドクター 大阪薬科大学客員助手 西義則
3. 演題「マクロファージおよびメサンギウム細胞におけるToll-like receptor 9(TLR9)の発現と機能」
演者 大阪薬科大学教授 天野 富美夫
4. 演題「DNAの塩基配列と構造を読む分子」
演者 京都大学大学院理学研究科教授 杉山 弘
5. 演題「リボソーム再生系を標的とした新規抗生剤の開発」
演者 大阪薬科大学客員教授 小林 祐次
6. 演題「遺伝子操作マウスが明らかにする受精のメカニズム」
演者 大阪大学微生物病研究所附属遺伝情報実験センター 教授 岡部 勝

経理課だより

平成20年度 納付金について

薬学部 納付金【薬学科(6年制)・薬科学科(4年制)共通】

区 分		初 年 度		
		前 期	後 期	計
入	学 金	400,000円	—	400,000円
学 費	授 業 料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施設・設備費	300,000円	300,000円	600,000円
計		1,300,000円	900,000円	2,200,000円

※5年次以降に予定されている学外での病院・薬局実務実習に必要な費用は大学が負担します。

※学友会及び育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円(初年度のみ)、学友会費5,000円(年額)及び育友会費18,000円(年額)があります。

なお、学友会とは本学学生で構成される自治団体、育友会とは本学学生の父母若しくはこれに準ずる者で構成される団体です。

大学院 納付金

区 分		初 年 度		
		前 期	後 期	計
入 学 金	他大学卒業生	300,000円	—	300,000円
	本学卒業生	150,000円	—	150,000円
授 業 料	推薦入学生・ 一般入学生	400,000円	400,000円	800,000円
	推薦入学生	300,000円	300,000円	600,000円

※学外で研修等を実施する場合、別途費用を徴収することがあります。

※育友会から徴収を委託されている納付金として、育友会費18,000円(年額)があります。

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となります(大阪薬科大学学則第17条)ので、ご注意ください。納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

キャリアサポート課だより

キャリアサポート課では新年度より新入職課員を迎え質の向上を図っています。

平成18年度学部卒業生（54期生）、大学院博士前期（修士）課程修了者（31期生）に対して、進路・就職に関する職種及び企業選定をスムーズにするためのサポートを行ってきました。

1. 就職ガイダンス 24回実施
2. 学内企業セミナー 3回実施
 - 1) 研究・医薬開発職関連企業(9月)－24社参加
 - 2) 薬業関連企業(11月)－45社参加
 - 3) 薬局・ドラッグストア(12月)－49社参加
3. インターンシップの実施(8月)

	平成18年度
実施企業数	21
参加人数 (内、女子)	40 (28)

(参考)			
平成17年度	平成16年度	平成15年度	平成14年度
16	12	7	3
31 (22)	27 (17)	16 (15)	7 (5)

4. キャリアサポート課員による進路・就職等に関する個人面接の実施

	平成18年4月～平成19年3月		
	計	男	女
延べ回数 (内、大学院生)	1,160 (190)	338 (75)	822 (115)
学生数 (内、大学院生)	341 (66)	101 (29)	240 (37)

	平成17年4月～平成18年3月		
	計	男	女
延べ回数 (内、大学院生)	736 (148)	198 (70)	538 (78)
学生数 (内、大学院生)	317 (69)	99 (32)	218 (37)

キャリアサポート課員は各職種毎に頻回に学生の相談に応じています。相談内容は進路先決定、企業選択方法、履歴書・エントリーシートの添削、面接の受け方、模擬面接、病院研修生の選考方法、大学院修了後の就職状況など多岐にわたっています。

平成18年度卒業生へのキャリアサポート業務（進路・就職指導支援）を振り返ってみますと、就職ガイダンスの充実は勿論ですが、学内企業セミナーは年毎に重要度が増してきています。多数の企業やOB・OGとの出会い、企業文化とのふれあい等が学生各自の進路決定のヒントとなっています。また、個人面接（相談）日程が年々増加しており、個々の価値観に沿った進路・就職先を決定できるよう、キャリアサポート課員も一丸となって業務に励んでいます。右記にキャリアサポート活動の現状を画像でまとめました。ご参照ください。



■「就職ガイダンス」

※1年次生から実施
※開催回数：年24回



■「卒業生による職種紹介」

{3年生（製薬企業）}

■「学生企業セミナー」



左〔大学院（研究職等）〕
中〔3年生（製薬企業）〕
右〔3年生（薬局）〕



■「就職内定者との懇談会」

※就職内定の4年次生から、後輩への就活アドバイスなど



■「インターンシップ（MR他）」

※体験報告発表会
ーパネルディスカッションー

教務課だより

平成19年度 前期行事予定 (学部)

- 4.4(水) 入学式(学部・大学院)
4.5(木) 新入生ガイダンス
4.5(木) 第92回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
4.6(金) 校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
4.9(月) 前期授業開始
4.10(火) 健康診断(新入生以外の学生・職員の男子)
4.11(水) 健康診断(新入生以外の学生・職員的女子)
4.13(金) 前期選択科目履修届提出締切(1~3年次生) 午後3時(教務課)
4.16(月) 健康診断(新入生以外の学生)
5.9(水) 創立記念日(休業)
5.10(木) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
5.11(金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
5.14(月) 就職ガイダンス(3年次生)
6.2(土) 学友会球技大会
6.8(金) 前期授業終了(4年次生)
6.14(木)
 } 前期定期試験(4年次生)
6.19(火)
6.20(水) 前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
7.2(月) 平成20年度大学院修士課程推薦入学試験
7.10(火) 平成20年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表
7.13(金) 前期授業終了(1~3年次生)
7.17(火) 前期授業予備日
7.18(水)
 } 前期定期試験(1~3年次生)
7.31(火)
8.1(水) 前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
8.20(月) 平成20年度大学院修士課程一般入学試験
8.24(金) 前期再試験受験者発表(4年次生)
8.28(火) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
8.31(金) 平成20年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
8.31(金) 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)
 } 9月8日(土)を含む
9.12(水)
9.3(月) 前期再試験(1~3年次生)9月8日(土)を含む
 }
9.12(水)
9.14(金) 後期授業開始(1~3年次生)
 就職ガイダンス「学内企業セミナーⅠ(研究・臨床開発職等)」(大学院1年次生他)
9.21(金) 特別再試験受験者発表(4年次生)

※4年次生「薬学総合演習」の講義日程等については、別途指示します。

平成19年度 前期行事予定 (大学院)

- 4.4(水) 入学式
4.10(火) 健康診断
4.11(水) 前期(前半)特論開始
4.11(水) 健康診断
4.16(月) 前期特論選択科目履修届提出締切 午後3時(教務課)
4.16(月) 健康診断
5.9(水) 創立記念日(休業)
6.4(月) 臨床実務研修報告会
6.4(月) 前期(後半)特論開始
6.18(月)
 } 平成20年度修士課程推薦入学試験出願受付
6.22(金)
7.2(月) 平成20年度修士課程推薦入学試験
7.10(火) 平成20年度修士課程推薦入学試験合格者発表
7.17(火)
 } 平成20年度修士課程一般入学試験出願受付
7.27(金)
7.20(金) 前期特論終了
8.20(月) 平成20年度修士課程一般入学試験
8.31(金) 平成20年度修士課程一般入学試験合格者発表
9.14(金) 就職ガイダンス「学内企業セミナーⅠ(研究・臨床開発職等)」

学位授与

[博士]

論博第47号 博士(薬学) 西澤 学
クロベ(*Thuja standishii*(Gord.)Carr.)樹皮の含有成分に関する研究
(平成18年12月22日付)

論博第48号 博士(薬学) 浅野 晶子
アジシアサイクラマイド及びその誘導体の構造化学的研究
(平成19年3月14日付)

[修士]

修士(薬学)男子26名 女子29名 合計55名
(平成19年3月17日付)

[学士]

学士(薬学)薬学科161名 製薬学科96名
男子76名 女子181名 合計257名
(平成19年3月17日付)

平成18年度 大学院修士課程修了者 修士論文題目

氏名	専攻分野	修士論文題目
* 安倍 祥倫	薬用資源学	唐独活含有クマリン成分Columbianadinが脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットの血圧ならびに脂質代謝機構に及ぼす影響
* 稲垣佐知子	臨床薬学	ハムスター心筋梗塞直後のマトリックスメタロプロテアーゼの重要性
* 上田 恭子	薬理学	腎虚血再灌流障害に対するTRPV1アゴニストの改善効果について
江本 和幸	薬用資源学	中国産セリ科生薬、福参のフェノール性成分に関する研究
大黒 亜美	有機薬科学	抗腫瘍活性を有するアザリグナン類の合成に関する研究
大田 健二	分析化学	腫瘍血管新生因子VEGFR-TKを標的とする分子イメージング薬剤の基礎的検討
大野 祐貴	有機薬科学	生理活性物質合成に応用可能なピラゾール環への直接的置換基導入法の開発
岡出 隼人	生物物理化学	土壌線虫由来タンパク質合成開始因子IFE3 及びIFE5 と、シロイヌナズナ由来タンパク質合成開始因子eIF(iso)4E 及びカボモザイクウイルス由来多機能タンパク質VPgの構造と機能に関する研究
岡本 将隆	生物科学	タンビマムシ由来ホスホリパーゼA ₂ 阻害タンパク質PLI α の3量体構造に関する研究
奥山佳代子	生物物理化学	Tauタンパク質微小管結合ドメイン (MBD) の自己凝集における各リピードペプチドの役割について
郭 哲俊	薬理学	フラバンジェノールの抗高血圧作用とその作用メカニズムについて
鎌田真規子	生物科学	培養アストロサイトの神経栄養因子分泌調節に及ぼす核酸系免疫賦活剤の影響に関する研究
河井 嶺男	薬理学	oil matrix を用いた経口徐放化剤剤の設計に関する基礎的検討
* 川田 裕子	薬理学	腎臓移植患者におけるタクロリムス水和物とミコフェノール酸モフェチルの体内動態
貴志 教代	分析化学	癌診断用シグマリグランドの構造変化による体内動態制御と基礎的検討
駒木 麗	分析化学	シスプラチン耐性癌細胞に有効な新規白金 (II) 二核錯体の作用機構の解析
坂本 博匡	衛生薬学	内分泌攪乱物質の脂肪蓄積促進作用とそのメカニズム
笹岡 徹誠	薬理学	心交感神経からのノルエピネフリン遊離に及ぼすアンジオテンシン II AT ₂ 受容体の役割
佐竹 藍子	薬理学	腎虚血再灌流障害における17 β -estradiolの腎保護効果メカニズム
* 佐藤 朋彦	薬理学	抗悪性腫瘍薬シスプラチンによる尿管間質障害への活性酸素の関与
重田 寛文	薬用資源学	海水魚由来菌類の産生する細胞毒性物質の探索研究
* 清水久実代	臨床薬学	基礎的研究：混合錯体生成反応を用いるジルコニウム (IV)、フッ化物イオン及び医薬品の吸光度法の開発 研究 臨床的研究：尿中の薬物代謝酵素活性の測定とその評価に関する研究
杉浦 孝宏	薬理学	虚血性急性腎不全におけるアグマチンの腎保護効果
杉本 貴洋	薬理学	難溶性化合物のADME基本情報取得のためのin vitro実験法の確立
須崎 範子	臨床薬学	ラット肝灌流モデルの基礎的研究
角 祐美	衛生薬学	ヒト大腸癌細胞HT-29の増殖に対する脂質過酸化関連物質の影響
清家 希穂	生物物理化学	好熱性放線菌Streptomyces thermoviolaceus OPC-520株由来糖結合タンパク質BxIEのX線結晶構造解析
高岡伊三夫	有機薬科学	抗腫瘍性海洋天然物pericossineAの全合成研究
* 高谷 陽子	臨床薬学	臨床的研究-1：人工血管内シャント新規造設による血圧への影響と適切な薬剤管理指導の検討 臨床的研究-2：透析患者の貧血治療における炎症と栄養の関連性
田川 佳代	生物物理化学	Na ⁺ /Ca ²⁺ 交換体 (NCX1) のCa ²⁺ 結合領域における金属の種類による結合依存性について
* 武川 菜実	薬理学	Etoposide併用におけるMorphineの体内動態の変化と鎮痛効果への影響
田路さやか	薬用資源学	カバノアナタケ菌核の産生する新規Lanostane型トリテルペノイドの構造と活性に関する研究
谷口 尚子	薬理学	血管内皮由来循環調節因子の発現に対するフラバンジェノールの影響
田部 三沙	臨床薬学	アミン系有機試薬の生体関連化合物分析法への応用に関する研究
* 徳永 友佳	臨床薬学	大腸菌由来DNA (CpG-DNA) 誘発性敗血症モデルラットにおけるジゴキシンの薬物動態
中野 慎一	生物科学	Bacillus cereus菌由来スフィンゴミエリナーゼの界面認識機構
中野 里香	臨床薬学	JM-1232 (-) の心機能に与える影響について-in vivo,in vitroにおける検討-
* 鍋島 静	臨床薬学	C型慢性肝炎とadipocytokines
成橋 真也	薬理学	高血圧治療薬併用時の血圧調節機構を含めたPharmacokinetic-Pharmacodynamic解析
長谷川洋一	薬理学	モノクローリン誘発性肺高血圧ラットにおける性ホルモンの役割について
林 真奈美	薬理学	セリ科植物含有フラノクマリン誘導体がCYP3A4及びP-glycoproteinにおよぼす影響に関する研究
疋田 裕子	生物科学	Vibrio vulnificusの病原因子の解析
人見 哲平	薬用資源学	トドマツ樹皮のポリフェノール類に関する研究
日比 大介	薬理学	腎動脈分枝血管結紮と片腎摘出による慢性腎不全における腎間質線維化に対する抗酸化剤エダラボンの影響
平尾 大典	薬用資源学	抗腫瘍活性を有するピログルタミン酸含有オリゴペプチドの探索
本庄 達哉	薬理学	CYP3A誘導剤投与後の肝および小腸CYP3A活性の時間的変化に関する研究
本田 隆幸	臨床薬学	学童検診におけるスギ花粉症とIL-13, Fc ϵ R1 α mRNA発現についての検討
牧野 葵	分析化学	新規白金 (II) 二核錯体の作用発現に關与するタンパク質群の プロテオーム解析
向井 康博	生物物理化学	マウス由来常染色体劣性若年性パーキンソン病原因タンパク質ParkinのUbiquitin-like domainのX線結晶構造解析
* 森岡 想	臨床薬学	臨床的研究-1：NSTによる栄養不良患者のフォローとアウトカム 臨床的研究-2：胃全摘術後における早期経腸栄養法の安全性と効果に関する検討
森口 純	臨床薬学	小腸・肝臓・腎臓におけるP-糖タンパク質発現および活性に及ぼすlipopolysaccharideの影響
森田 啓嗣	有機薬科学	RNAプローブ開発のためのイミダゾールC2-ヌクレオシドホスホロアミダイトの合成研究
安田 真織	衛生薬学	サルモネラワクチンの開発に関する基礎的研究
山崎智香子	臨床薬学	α -スルホフェニルフルオロン-金属錯体との呈色反応を利用する医薬品の吸光度定量法の開発研究
山下 知佳	薬理学	糖尿病性心臓病に対する間欠的低酸素暴露の影響とオルメサルタン、ニフェジピン の単独ならびに併用処置の効果について

*印は、臨床薬学コースを示す。

学生課だより

○ 平成19年度 学友会執行委員会

執行委員長 瀬古 祐輔 (漢法医学研究部)
 副執行委員長 阪田 健司 (グループAPO薬学研究部)
 総務局長 柳本 大輝 (E.S.S.部)
 厚生局長 石津 智司 (グループAPO薬学研究部)
 広報渉外局長 後藤 翔 (グループAPO薬学研究部)
 体育局長 田中 亮輔 (ソフトテニス部)
 文化局長 山元 祐 (アルペンスポーツクラブ)

○ 平成19年度 大薬祭実行委員会

実行委員長 田中 智 (ソフトテニス部)
 副実行委員長 和田明日香 (柔道部)
 総務部長 柳本 大輝 (E.S.S.部)
 イベント部長 脇田万里子 (剣道部)
 リサイクル部長 竹村 和浩 (柔道部)
 装飾部長 大西 加奈 (弓道部)
 渉外部長 生野 可織 (フィールドウォーカーズ部)
 渉内部長 上田佳寿子 (フィールドウォーカーズ部)

○ 大薬祭「Apple～甘酸っぱさ全開～」が開催されます

本年度の大薬祭は、「Apple～甘酸っぱさ全開～」をテーマに、平成19年11月2日(金)～4日(日)の日程で開催されます。当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大薬祭の定番となっている「薔薇祭」や、フリーマーケットなど様々なイベントが行われる予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。

平成19年度学生定期健康診断受診状況 (4月6日、10日、11日、16日、5月1日)

※全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男	129 132	99 147	102 132	103 124	25 26	24 28	/	0 1	2 3	484 593
女	185 188	85 182	178 199	178 206	32 32	29 33	/	/	1 1	688 841
計	314 320	184 329	280 331	281 330	57 58	53 61	/	0 1	3 4	1,172 1,434
受診率	98.1% (97.9)	55.9% (63.0)	84.6% (89.1)	85.2% (86.8)	98.3% (100)	86.9% (78.2)	- (100)	0% (100)	75.0% (100)	81.7% (84.5)

< > 内は平成18年度

*結核予防法廃止に伴い、感染症法の規定により、「胸部X-P撮影」は学部・大学院共新生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

*平成19年度(2007)より、学部新生のみ受診項目に聴力検査(1000Hz)を追加

平成19年度胸部X線受診状況(間接撮影) (4月6日、10日、11日、16日、5月1日)

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男	128 132	71 147	97 132	103 124	25 26	23 28	/	0 1	2 3	449 593	52 79
女	184 188	56 182	168 199	180 206	32 32	28 33	/	/	1 1	649 841	21 34
計	312 320	127 329	265 331	283 330	57 58	51 61	/	0 1	3 4	1,098 1,434	73 113
受診率	97.5% (97.9)	38.6% (47.3)	80.1% (89.5)	85.8% (86.8)	98.3% (100)	83.6% (76.4)	- (100)	0% (100)	75.0% (100)	76.6% (80.8)	64.6% (62.5)

< > 内は平成18年度

*結核予防法廃止に伴い、感染症法の規定により、「胸部X-P撮影」は学部・大学院共新生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

平成18年度 保健室利用状況 (H18.4.1～H19.3.31)

月	利用者別		利用内容別					計
	学生	職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	
4	128	2	16	28	73	12	1	130
5	301	10	27	24	240	20	0	311
6	506	24	36	41	440	13	0	530
7	183	10	25	22	132	14	0	193
8	58	2	9	3	42	5	1	60
9	136	11	35	21	71	20	0	147
10	124	21	22	45	58	20	0	145
11	135	14	15	53	63	16	2	149
12	101	11	8	47	35	22	0	112
1	56	7	2	22	30	9	0	63
2	42	18	6	23	30	1	0	60
3	42	15	3	16	34	3	1	57
計	1,812 (2,164)	145 (135)	204 (147)	345 (422)	1,248 (1,591)	155 (135)	5 (4)	1,957 (2,299)

「外科系」は、ガーゼ交換、湿布交換を含む。

< > 内は平成17年度

「健康指導・相談」は、健康診断受診証明の発行、検尿、心電図検査、血圧測定、身長・体重測定等を含む。

健康管理支援室からのお知らせ

2007年4月から保健室が健康管理支援室に改称されました。

AED(自動体外式除細動器)が設置されました。《大学 4ヵ所/附属薬局 1ヵ所》

『ハートに稲妻』のマーク

【大学の設置場所】

★本部・図書館棟 1F

★講義・実習棟 1F

★体育館 1F

★研究棟 1F



学生・教職員の方は設置場所の確認と記憶をしてください。

*誰の身にも起こりうる突然の心停止状態、主な直接の原因は心室粗動や細動です。これは心筋に電氣的刺激が不規則に伝導するために起こります。心筋がケイレン状態となり全身への血液循環が困難になります。このケイレン状態を正常に戻すためには心臓への電気ショックが必要になります。心臓を正常に戻す器械がAED(自動体外式除細動器)なのです。

平成19年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
継続	客員教授	小林 祐次	特定領域研究	アディポネクチンの超分子構造・相互作用	3,200
	教授	春沢 信哉	基盤研究(C)	RNA触媒及びH4受容体機能解明のためのイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究	700
	教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質の自己凝集機構の解明：痴呆治療薬開発のための基盤研究	700
	教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	肺高血圧症の発症・進展機構におけるエンドセリン-1の役割と性差	500
	准教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	シグマレセプターを標的とする癌の分子イメージング画像診断剤の開発に関する研究	800
	講師	藤井 忍	基盤研究(C)	スフィンゴミエリナーゼの触媒および基質認識機構の解明	1,400
	准教授	友尾 幸司	基盤研究(C)	新規抗ガン剤の開発を目指した翻訳開始因子4Eの機能調節機構の解明	1,600
	講師	和田 俊一	基盤研究(C)	遺伝子治療を目指したAib含有ペプチドのベクターとしての可能性	1,100
	教授	天野富美夫	基盤研究(C)	新規病原因子SEp22のサルモネラ腸管透過性の調節による病原性発現機構の解析	1,400
	教授	掛見 正郎	基盤研究(C)	メカニズムに基づいたPK-PD解析モデルによる医薬品の最適投与設計	1,000
新規	講師	藤森 功	基盤研究(C)	プロスタグランジンD2受容体を介した脂肪細胞の分化調節機構の解明	1,200
	客員助教	西 義則	若手研究(B)	分子間相互作用におけるエントロピーの寄与に注目したドラッグデザイン	1,200
	教授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	1,900
	講師	恩田 光子	基盤研究(C)	DPCを用いた臨床経済的評価の病院マネジメントへの応用に関する研究	800
	助教	平田 雅彦	基盤研究(C)	癌の早期診断と抗癌剤の薬効予測可能な新規シグナル伝達分子イメージング薬の開発	1,000
合計		15件			18,500

入試・広報課だより

■平成19年度 入試結果

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)			一般入試 II (G方式)			帰国生徒特別選抜入試 (K方式)			
	募集人員	男	女	計	男	女	計	男	女	計	女	計	男	女	計	男
募集人員	60			20			80			90			若干名			
性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	女	計	男	女	計	男	
志願者	205	346	551	318	443	761	270	320	590	486	555	1,041	1	0	1	
受験者	203	343	546	316	442	758	263	307	570	429	474	903	1	0	1	
合格者	59	125	184	85	117	202	113	136	249	159	160	319	0	0	0	
入学者	35	58	93	2	2	4	36	37	73	44	44	88	0	0	0	

■平成20年度 入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)	一般入試 II (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)
募集人員	60名	20名	80名	90名	若干名
出願開始日	平成19年11月 1日(木)	平成20年 1月 7日(月)	平成20年 1月 7日(月)	平成20年 1月 7日(月)	平成19年10月25日(木)
出願締切日	平成19年11月 6日(火)消印有効	平成20年 1月18日(金)消印有効	平成20年 1月22日(火)消印有効 平成20年 1月23日(水)のみ持参可	平成20年 2月 1日(金)消印有効 平成20年 2月 4日(月)のみ持参可	平成19年11月 1日(木)消印有効
入学試験日	平成19年11月10日(土)	平成20年 1月19日(土) 平成20年 1月20日(日)	平成20年 2月 1日(金)	平成20年 2月 9日(土)	平成19年11月10日(土)
合格発表日	平成19年11月21日(水)	平成20年 2月16日(土)	平成20年 2月 7日(木)	平成20年 2月16日(土)	平成19年11月21日(水)
入学手続締切日	平成19年12月13日(木) (一括方式)	1次平成20年2月22日(金) (2段階方式) 2次平成20年3月21日(金)	1次平成20年2月14日(木) (2段階方式) 2次平成20年3月21日(金)	1次平成20年2月22日(金) (2段階方式) 2次平成20年3月21日(金)	平成19年12月13日(木) (一括方式)
試験場	本学		本学・駿台予備学校大阪南校・ 広島FCC文化センター・高松商工会議所会館	本学・駿台予備学校大阪南校 広島FCC文化センター	本学
選考内容 (時間・配点)	<p>〔調査書〕 150点 (理科、外国語の評定平均値 各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点) 適性確認 〔理 科〕 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する 〔外国語〕 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング</p>	<p>センター試験利用科目 〔理 科〕 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち最高得点科目を採用し、 それを2倍する 〔外国語〕 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)とリス ニング(50点満点)の合計得 点を200点満点に換算する 〔数 学〕 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない</p>	<p>〔理 科〕 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ〔選択 分野を含む〕) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ〔選択 分野を含む〕) から1科目を選択する 〔外国語〕 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング 〔数 学〕 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル) 〔調査書〕 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値 各25点、 全体の評定平均値 75点)</p>	<p>〔理 科〕 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ〔選択 分野を含む〕) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ〔選択 分野を含む〕) から1科目を選択する 〔外国語〕 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング 〔数 学〕 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)</p>	<p>適性確認 〔理 科〕 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する 〔外国語〕 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング 〔面 接〕 学習意欲、日本語能力を確認 する 案字を修める上で必要な分野 を試問する</p>
判 定	適性確認等及び 提出書類を総合して判定する	センター試験の成績及び 提出書類を総合して判定する	学力試験等及び 提出書類を総合して判定する	学力試験及び 提出書類を総合して判定する	適性確認、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	20,000円	35,000円	35,000円	35,000円
備 考	現役に限る				

教員研究業績 (2006年)

(2006.1.1~12.31)

1. 研究学術論文

著者	題目	掲載誌
市川隼人, 大野祐貴, 宇佐美吉英, 有本正生	Synthesis of 4-arylpyrazoles via PdCl ₂ (dppf)-catalyzed cross coupling reaction with Grignard reagents	<i>Heterocycles</i> , 68, 2247-2252(2006)
宇佐美吉英他	Antineoplastic Agents. 551. Isolation and Structures of Bauhiniastatins 1-4 from <i>Bauhinia purpurea</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 69, 323-327(2006)
宇佐美吉英, 堀部祐介, 高岡伊三夫, 市川隼人, 有本正生	First total synthesis of (-)-pericosine A from (-)-shikimic acid: structure revision and determination of the absolute configuration of antitumor natural product pericosine A	<i>Synlett</i> , 10, 1598-1600(2006)
浦田秀仁, 清水はな, 赤木昌夫	Structural studies of heterochiral DNA/DNA, RNA/RNA and DNA/RNA duplexes	<i>Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids</i> , 25, 359-367(2006)
浦田秀仁, 他	Biomolecular mirror-image recognition: Reciprocal chiral-specific DNA binding of synthetic enantiomers of zinc finger domain from GAGA factor	<i>Chirality</i> , 18, 254-258(2006)
春沢信哉, 松田千春, 荒木理佐, 栗原拓史	Efficient and β -Stereoselective synthesis of pyrazole C-nucleosides	<i>Synthesis</i> , 5, 793-798(2006)
春沢信哉, 荒木理佐, 栗原拓史, 他	Nucleobase catalysis in the hairpin ribozyme	<i>RNA</i> , 12, 980-987(2006)
谷口雅彦, 他	Rautandiols A and B, pterocarpan and cytotoxic constituents from <i>Neorautanenia mitis</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 69, 397~399(2006)
芝野真樹雄, 内藤英之, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Two isocoumarins from <i>Plicurospermum angelicoides</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 54, 717~718 (2006)
福田優子, 酒井邦佳, 松永春洋, 田中麗子, 他	Cancer chemopreventive effect of orally administrated lupane-type triterpenoid on ultraviolet light B induced photocarcinogenesis of hairless mouse	<i>Cancer Lett.</i> , 240, 94~101(2006)
名和田俊一, 田中麗子	Isolation, DNA topoisomerase-II inhibition, and Cytotoxicity of three new terpenoids from the bark of <i>Macaranga tanarius</i>	<i>Chem. Biodiv.</i> , 3, 473~479(2006)
田中麗子, 南 俊史, 他	Anti-initiating activity of 3 β -methoxy-13 α ,14 α -epoxyserratan-21 β -ol (PJJ-34) from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> CARR. var. <i>jezoensis</i>	<i>Chem. Biodiv.</i> , 3, 818~824(2006)
山田剛司, 辻岡真紀子, 松永春洋, 田中麗子, 他	A study on medicinal plants from Malaysia focused on <i>Acalypha siamensis</i> OLIV. ex GAGE. Isolation and structure of a new tetraterpene, acallyphaser A	<i>Chem. Biodiv.</i> , 3, 1301~1306(2006)
山田剛司, 箕浦克彦, 田中麗子, 沼田敦	Cell-adhesion inhibitors produced by a sea hare-derived <i>Periconia</i> sp. II. Absolute stereostructures of peribysins H and I	<i>J. Antibiotics</i> , 59, 345~350(2006)
福田優子, 山田剛司, 和田俊一, 酒井邦佳, 松永春洋, 田中麗子	Lupane and oleanane triterpenoids from the cones of <i>Liquidamber styraciflua</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 69, 142~144 (2006)
田中麗子, 和田俊一, 山田剛司, 他	Potent antitumor activity of 3,4-seco-8 β H-Ferna-4(23),9(11)-dien-3-oic acid (EC-2) and 3,4-seco-oleana-4(23),18-dien-3-oic acid (EC-4), evaluated by an in vitro human cancer cell line panel	<i>Planta Med.</i> , 72, 1347~1349(2006)
田中麗子, 他	Cyclic and branched acyl chain galaactoglycerolipids and their effect on anti-tumor-promoting activity	<i>Eur. J. Med. Chem.</i> 41, 1456~1463 (2006)
山田剛司, 他	Structural revision of peribysin C and D	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 47, 4623~4626 (2006)
天形太郎, 箕浦克彦, 沼田 敦	Gymnastatins F-H, cytostatic metabolites from the sponge-derived fungus <i>gymnascella dankaliensis</i>	<i>J.Nat. Prod.</i> , 69, 1384-1388(2006)

著 者	題 目	掲 載 誌
箕浦克彦, 時政真理, 平岡周子, 水島史絵, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	N-terminal secondary structures of second and third repeat fragments responsible for self-assembly of tau microtubule-binding domain	<i>Peptide Science</i> , 2005, 367-370 (2006)
石田寿昌, 他	Binding mode of novel 1-substituted quinazoline derivatives to poly(ADP-ribose) polymerase-catalytic domain, revealed by X-ray crystal structure analysis of complexes	<i>Biochem. Biophys. Acta</i> , 1764, 913-919(2006)
水島史絵, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Fluorescence-coupled CD conformational monitoring of filament formation of tau microtubule-binding repeat domain	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 343, 712-718(2006)
尹 康子, 大石宏文, 石田寿昌, 他	Intermolecular association model of antifungal polyene macrolide via concerted =C-H...O interactions: X-ray crystal structure analysis and ab initio molecular orbital calculations of chainin	<i>Bull.Chem.Soc.Jpn.</i> , 79, 126-133 (2006)
石田寿昌, 他	Structural scaffold of 18-crown-6-tetracarboxylic acid for optical resolution of chiral amino acid: X-ray crystal analyses of complexes of D- and L-isomers of serine and glutamic acid	<i>Cherm.Pharm.Bull.</i> , 54, 452-457 (2006)
箕浦克彦, 尹 康子, 石田寿昌, 他	Enantioselective synthesis of a phenylalanine library containing alkyl groups on the aromatic moiety: Confirmation of stereostructure by X-ray analysis	<i>Chem.Pharm.Bull.</i> , 54, 837-877 (2006)
友尾幸司, 安孫子美美, 石田寿昌, 他	Effect of N-terminal region of eIF4E and Ser65-phosphorylation of 4E-BP1 on interaction between eIF4E and 4E-BP1 fragment peptide	<i>J.Biochem.</i> , 140, 237-246(2006)
渡辺大哉, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Quantitative evaluation of each catalytic subsite of cathepsin B for inhibitory activity based on inhibitory activity-binding mode relationship of epoxysuccinyl inhibitors by X-ray crystal structure analyses of complexes	<i>J.Mol.Biol.</i> , 362, 979-993(2006)
水島史絵, 箕浦克彦, 友尾幸司, 平岡周子, 石田寿昌, 他	PH-dependent filament formation of repeat peptide of microtubule-binding domain of tau protein	<i>Peptide Science</i> , 2005, 305-308 (2006)
友尾幸司, 他	Binding analyses for the interaction between plant virus genome-linked protein (Vpg) and plant translational initiation factors	<i>Biochimie</i> , 88, 329-340(2006)
西 義則, 小林祐次, 他	Conformational analysis of human calcitonin in solution	<i>J. Pept. Sci.</i> , 12, 51-57(2006)
小林祐次,他	The solution structure of the methylated form of the N-terminal 16-kDa domain of <i>Escherichia coli</i> Ada protein	<i>Protein Sci.</i> , 15, 487-497(2006)
小林祐次, 他	Regional and segmental flexibility of antibodies in interaction with antigens of different size	<i>FEBS J.</i> , 273, 1476-1487(2006)
小林祐次, 他	Structure of cytochrome c552 from a moderate thermophilic bacterium, <i>Hydrogenophilus thermoluteolus</i> : comparative study on the thermostability of cytochrome c	<i>Biochemistry.</i> 45, 6115-6123 (2006)
小林祐次, 他	Crystallization and preliminary X-ray analysis of the complex of NADH and 3 α -hydroxysteroid dehydrogenase from <i>Pseudomonas</i> sp. B-0831	<i>Acta Cryst.</i> , F62, 569-571(2006)
小林祐次, 他	NMR structure of an intracellular loop peptide derived from prostaglandin EP3 α receptor	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 345, 933-937 (2006)
小林祐次, 他	Apo- and holostructures of 3 α -hydroxysteroid dehydrogenase from <i>Pseudomonas</i> Sp. B-0831	<i>J. Biol. Chem.</i> , 281, 31876-31884 (2006)
西 義則, 小林祐次, 他	Stabilizing mechanism of collagen-like triple helical structure of (4(R)-Hydroxyprolyl-4(R)-hydroxyprolyl-glycine) ₁₀	<i>Peptide Science</i> 2005, 393-396 (2006)
西 義則, 小林祐次, 他	α, α -Disubstituted amino acids bearing a large hydrocarbon ring. Peptide self-assembly through novel hydrophobic recognition	<i>Peptide Science</i> 2006, 136(2006)
西 義則, 小林祐次, 他	Effect of hydration on the thermal stability of the collagen model peptide containing 4(S)-hydroxyproline	<i>Peptide Science</i> 2006, 169-170 (2006)

著者	題目	掲載誌
齊藤睦弘, 梅本大輔, 松永 藍, 佐藤卓史, 千熊正彦	Antioxidant activities of synthesized selenocompounds without selenol groups	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , 17, 423~426(2006)
米田誠治, 千熊正彦, 他	A third mode of DNA binding: Phosphate clamps by a polynuclear platinum complex	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 128, 16092~16103(2006)
土井光暢, 伊森久美子, 坂口法子, 浅野晶子	Boc-Pro-Hyp-Gly-OBzl and Boc-Ala-Hyp-Gly-OBzl, two repeating triplets found in collagen.	<i>Acta Cryst.</i> , C62, o577-o580(2006)
浅野晶子, 山田剛司, 土井光暢, 他	Conformational restraints induced by modification of configuration of threonine and oxazoline residues in ascidiacyclamide analogues.	<i>J. Peptide Res.</i> , 66(Suppl. 1) 90-98 (2006)
平田雅彦, 大桃善朗 他	Synthesis and In Vitro Evaluation of Iodinated Derivatives of Piperazine as a New Ligand for Sigma Receptor Imaging by Single Photon Emission Computed Tomography	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 54,470-475 (2006)
平田雅彦, 大桃善朗 他	In Vivo Evaluation of Radioiodinated 1[2-(3,4-Dimethoxyphenyl)ethyl]-4-(3-phenylpropyl)-piperazine Derivatives as New Ligands for Sigma Receptor Imaging Using Single Photon Emission Computed Tomography	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 29, 2009-2015 (2006)
藤井 忍, 池田潔, 他	Synthesis of sphingomyelin difluoromethylene analogue	<i>Tetrahedron Letters</i> , 47, 2627~2630(2006)
坂口 実, 古閑 誠, 若松正徳, 松村瑛子	Effects of systemic administration of β -carsomorphin-5 on learning and memory in mice.	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 530, 81-87(2006)
三野芳紀	Protein chemotaxonomy. XIII. Amino acid sequence of ferredoxin from <i>Panax ginseng</i>	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 29, 1771~1774 (2006)
三野芳紀	Determination of tin in canned foods by X-ray fluorescence spectrometry	<i>J. Health Sci.</i> , 52, 67~72(2006)
寺井志織, 安田真織, 天野富美夫	Regulation of SEp22 expression in <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> serovar Enteritidis by culture medium.	<i>Microbes and Environ.</i> , 21, 36-43 (2006)
天野富美夫, 他	An anti- <i>Salmonella</i> antibody prevents the <i>Salmonella enterica</i> serovar Enteritidis from infecting the human intestinal epithelial cell line, Caco-2, by interacting with flagella.	<i>Bioscience Microflora</i> , 25, 117-119 (2006)
天野富美夫, 川崎友紀子, 他	マクロファージへのサルモネラ接着に及ぼすフコイダ含有海藻抽出物の阻害効果について.	<i>Bacterial Adherence & Biofilm</i> , 20, (2006) in press
藤本陽子, 池田麻衣, 佐久間覚	Monochloramine potently inhibits arachidonic acid metabolism in rat platelets	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 344, 140~145(2006)
藤本陽子, 宮下英之, 佐久間覚	Induction of 8-hydroxydeoxyguanosine formation in DNA by fructose and glucose in the presence of copper	<i>J. Clin. Biochem. Nutr.</i> , 38, 113~118(2006)
佐久間覚, 宇佐久美子, 藤本陽子	15-Hydroperoxyeicosapentaenoic acid, but not eicosapentaenoic acid, shifts arachidonic acid away from cyclooxygenase pathway into acyl-CoA synthetase pathway in rabbit kidney medulla microsomes	<i>Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids</i> , 75, 69~74 (2006)
佐久間覚, 宇佐久美子, 藤本陽子	The regulation of formation of prostaglandins and arachidonoyl-CoA from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes by linoleic acid hydroperoxide	<i>Prostaglandins Other Lipid Mediat.</i> , 79, 271~277(2006)
西村知佐子, 南田望至, 宮崎 誠, 岩永一範, 掛見正郎	イトボシドの消化管吸収における薬物相互作用の解析	TDM研究, 23(4), 272-275(2006)
岩永一範, 櫛引俊宏, 宮崎 誠, 掛見正郎	Disposition of Lipid-Based Formulation in the Intestinal Tract Affects the Absorption of Poorly Water-Soluble Drugs	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 29(3)508-512 (2006)
岩永一範, 他	Selective induction of intestinal CYP3A23 by $1\alpha, 25$ -dihydroxyvitamin D ₃ in rats	<i>Biochem. Pharmacol.</i> , 72 385-392 (2006)
河合悦子, 中尾貴史, 国村 直, 幸田祐佳, 玄番宗一	Relationship of intracellular calcium and oxygen radicals to cisplatin-related renal cell injury	<i>J. Pharmacol. Sci.</i> , 100, 65~72 (2006)

著 者	題 目	掲 載 誌
幸田祐佳, 松永佳子, 塩田龍吾, 佐藤朋彦, 岸 祐子, 河合悦子, 玄番宗一	Involvement of RAF-1/MEK/ERK 1/2 signaling pathway in zinc-induced injury in rat renal cortical slices	<i>J. Toxicol. Sci.</i> , 31, 207~217 (2006)
中島淳志, 上田恭子, 高岡昌徳, 倉田隼人, 高山淳二, 大喜多守, 松村靖夫	Effects of pre- and post-ischemic treatments with FK409, a nitric oxide donor, on ischemia/reperfusion-induced renal injury and endothelin-1 production in rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 29, 577-579 (2006)
中野大介, 石井史絵, 川西秀明, 車塚大輔, 郭 哲俊, 池村健治, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Antihypertensive effect of angiotensin I-converting enzyme inhibitory peptides from a sesame protein hydrolysate in spontaneously hypertensive rats	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 70, 1118-1126 (2006)
田澤尚子, 山下知佳, 中野大介, 松村靖夫, 他	Angiotensin-II receptor blocker exerts cardioprotection in diabetic rats exposed to hypoxia	<i>Circ. J.</i> , 70, 787-792(2006)
大喜多守, 杉井真人, 北村彩子, 高岡昌徳, 松村靖夫	Differential effects of different statins on endothelin-1 gene expression and endothelial NOS phosphorylation in porcine aortic endothelial cells	<i>Exp. Biol. Med.</i> , 231, 772-776(2006)
藤井 彩, 中野大介, 葛城美幸, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Role of gp91phox-containing NADPH oxidase in the deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 552, 131-134 (2006)
車塚大輔, 松本典子, 白川久志, 木村彩香, 中野大介, 松村靖夫, 他	Gender difference of atorvastatin's vasoprotective effect in balloon-injured rat carotid arteries	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 553, 263-268 (2006)
中島淳志, 上田恭子, 高岡昌徳, 吉見佳子, 松村靖夫	Opposite effects of pre- and postischemic treatments with nitric oxide donor on ischemia/reperfusion-induced renal injury	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 316, 1038-1046(2006)
中野大介, 郭 哲俊, 藤井貴和子, 池村健治, 佐竹藍子, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Sesamin metabolites induce an endothelial nitric oxide-dependent vasorelaxation through their antioxidative property-independent mechanisms: possible involvement of the metabolites in the antihypertensive effect of Sesamin	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 318, 328-335(2006)
倉田隼人, 藤井俊秀, 筒居秀伸, 片山智章, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Renoprotective effects of l-carnosine on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , 319, 640-647 (2006)
川 行生, 田中一彦, 他	Correlation between plasma glucagon-like peptide 2 levels and proliferative markers in small intestinal injury in rats induced by methotrexate administration	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 29, 2327-2330 (2006)
加藤隆児, 津倉由里, 田中一彦, 他	Prediction of cibenzoline dose from that of digoxin	<i>Cir. Cont.</i> , 27, 55~60(2006)
加藤隆児, 田中一彦, 他	Effect of amiodarone on the serum concentration/dose ratio of metoprolol in patients with cardiac arrhythmia	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> , 21, 501~505(2006)
大頭麻理子, 廣岡輝子, 田中一彦, 他	2'-, 5'-Oligoadenyate synthase response rate predicting virological response of PEG-interferon- α 2b plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C	<i>J. Clin. Pharm. Ther.</i> , 31, 441~446 (2006)
加藤隆児, 他	Digoxin: Actual problems with therapeutic drug monitoring	<i>J. Health Insur. Med.</i> , 44, 57~60 (2006)
加藤隆児, 田中一彦, 他	後発医薬品メーカーに対する後発医薬品の情報に関する調査とその解析	医療薬学, 32, 700~709(2006)
中尾昌弘, 山崎智香子, 臣永 宏, 山口敬子, 藤田芳一	Spectrophotometric Determination of Anthracycline Anticancer Agents with Aluminum(III) and Chromazurol S in a Nonionic Surfactant Micellar Media	<i>Anal. Sci.</i> , 22, 313-316(2006)

著者	題目	掲載誌
神野伸一郎, 土井光暢, 山口敬子, 臣永 宏, 天野絵美, 梅原聡子, 内藤雅人, 山崎智香子, 藤田芳一	Crystal Structure of o-Sulfophenylfluorone as a Bioquantification Probe	<i>Anal. Sci.</i> , 22, x35-x36(2006)
臣永 宏, 門林宏子, 山口敬子, 神野伸一郎, 西村美智子, 藤田芳一	3,4,5,6-テトラフルオロ-2-カルボキシフェニルフルオロンとマンガン(II)を用いるヒストンのメンブラフィルター捕集・定量	分析化学, 55, 127-131(2006)
山崎智香子, 須崎菜穂子, 中尾昌弘, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一	α -スルホフェニルフルオロン-モリブデン(VI)との三元錯体の生成反応に基づくクロロプロマジン及びその関連薬物の吸光度定量	分析化学, 55, 733-737(2006)
荒川行生, 他	Intraocular concentration of intravenous prednisolone in experimental autoimmune uveoretinitis mice	<i>Jpn J Ophthalmol.</i> , 50, 561~562 (2006)
恩田光子, 他	Structural features of pharmacy function -The analysis using structural equation modeling-	<i>YAKUGAKU ZASSHI</i> , 126, 965~971(2006)
恩田光子, 他	物品供給に着目した薬局機能の定量的検討	<i>Jpn.J.Soc.Pharm.</i> , 25, 7~13(2006)
恩田光子, 他	DPCにおける薬剤師のクリニカルパスと医薬品マネジメントに関する調査研究	<i>J.Jpn.Soc.Hosp.Pharm.</i> , 42, 101-103 (2006)
楠瀬健昭	ホプキンスの幽美なソネット〜〇五番〜	「とい」, xxv, 4~5(2006)

2. 総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
市川隼人	過酸化水素と非金属分子触媒による環境調和型不斉エポキシ化	ファルマシア, 42, 69(2006)
春沢信哉, 藤嶽美穂代, 栗原拓史, 他	Review: Mass determination of phosphoramidites	<i>Current Protocols in Nucleic Acid Chemistry</i> , Unit 10.11.1-10.11.16 (2006)
玄番宗一	薬物による腎機能障害の病態と発症機序	日薬理誌, 127, 433~440(2006)

3. 著書

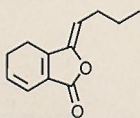
出願者	題目	特許番号
齊藤睦弘, 千熊正彦, 他		生命元素の事典, オーム社(2006)
池田 潔	Chap.2 水 p.65-102 Chap.5 タンパク質の機能 p.217-266	レーニンジャーの新生化学[上]-第4版-(2006)
井上晴嗣	Chap.15 代謝調節の原理: グルコースとグリコーゲン p.797-846	レーニンジャーの新生化学[上]-第4版-(2006)
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構編「薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2006年版」	じほう社(2006)
掛見正郎, 他	辻 彰 編「薬剤師のための 常用医薬品情報集 2006年版」	広川書店(2006)
中島淳志, 高岡昌徳, 吉見佳子, 上田恭子, 松村靖夫	腎虚血再灌流障害の発症過程および進展過程における一酸化窒素の役割	腎とフリーラジカル 第8集(東京医学社), P83-P86(2006)
高山淳二, 高岡昌徳, 杉野洋子, 西川満則, 佐竹藍子, 北野圭祐, 松村靖夫	腎虚血再灌流障害における性差-プロテオーム解析-	腎とフリーラジカル 第8集(東京医学社), P92-P96 (2006)
藤田芳一, 他	早期体験学習ハンドブック	ネオメディカル(2006)
西野隆雄, 掛見正郎, 他	薬剤師倫理規定, 病院・薬局実習の心得, 薬品管理, 実務実習モデル・コアカリキュラム	2006年版 薬学生のための病院・薬局実習テキスト(2006)
西野隆雄, 他	注射剤・輸液の調剤と高力ロリ-輸液, 眼科用剤, 眼軟嚢嚢	わかりやすい 調剤学 第5版(2006)
土井 勝	薬学のための微分と積分	日科技連出版社(2006)

薬用植物の紹介

トウキ

Angelica acutiloba KITAGAWA

当帰は神農本草経の中品に収載され、古来、特に血行障害、鎮痛、婦人科疾患の治療を目的とした漢方処方に配合されている生薬である。第十五改正日本薬局方では、当帰の基源植物にはトウキ *A. acutiloba* KITAGAWA 又はホツカイトウキ *A. acutiloba* KITAGAWA var. *sugiyamae* HIKINO の根を、通例、湯通ししたものと規定されている。日本には飛鳥時代に中国から渡来した説があるが、基源植物が中国に分布する記録が明らかでないことから、現在植栽されているトウキは本邦産のミヤマトウキ *A. acutiloba* var. *iwatensis* HIKINO が栽培化されたものとの説もある。17世紀の中期に山城および大和で大和当帰の栽培、生産化に成功したが、20世紀にはいつてからは山城での栽培は衰微し、奈良県および隣接する和歌山県が主となっている。特有の芳香のあるセリ科の多年生草本で、根は肥厚し多数の側根を付ける。茎は直立、分枝し、高さ40~90cmで葉柄とともに紫色を帯び、無毛、葉は互生、1~2回3出羽状複葉、小葉は卵状皮針形で鋭い重きよ歯縁で、葉面は濃緑色でつやがある。花期は8~10月で、枝先の複散形花序に白色の小さな花を多数つける。一方、明治年間の末期に奈良から北海道に当時の栽培株が導入されたが、良い収量が得られなかった。その後、昭和初期になって、現在栽培されているものが選抜され、今日に至っている。この栽培種はホツカイトウキと名付けられ現在に至っているが、その由来はまだ明らかではない。ホツカイトウキは茎が淡緑色で赤くならず、香りも少し異なる。根の主根が太く側根が少ないので、生薬に調整したとき大和当帰にくらべほっそりとした感じになる。当帰の生産は現在すべて栽培によるが、産地により方式が異なっている。一般には種子栽培で、苗床に播種し、1年後に本圃に定植するが、4月中旬~5月初旬が最適で、定



Ligustilide

植時に苗を見定め、鉛筆より太く成長したものは抽苔を防ぐ目的で“芽くり”を行う。芽の中心部が大きく成長した

際のと立ちを防ぎ、成長点を止め、根の肥大を促進させるためである。11月ごろに堀あげ、水洗、乾燥後、日干しにするか、あるいは半乾燥の時に70~80℃で湯揉みして乾燥させて仕上げている。

成分にはリグスチリド、プチリデンフタリドなどの精油（フタリド類）を0.1~0.2%、ファルカリノール、ファルカリンジオール、ファルカリノロンなどのポリアセチレン類、スコポレチン、ベルガプテン、ウンベリフェロンなどのクマリン類のほかフェニルプロパノイドのフェルラ酸、バニリン酸などを含む。また水溶性画分には数種の多糖物質の存在が知られている。当帰の煎出エキスはマウス経口投与で酢酸ライティングおよび毛細血管透過性を抑制し、ラット経口投与でアジュバント関節炎を抑制する。ポリアセチレン類には抗アセチルコリン作用、鎮痙作用、抗侵害作用がある。また多糖画分（ペクチン様アラビノガラクトン類）には、抗補体活性、抗腫瘍作用、インターフェロン誘起活性などが認められている。さらにフェルラ酸にはトロンボキサンA₂合成阻害による血小板凝集抑制作用がある。漢方では婦人病薬の主薬とされ、更年期障害、足腰の冷え、血行不順、生理不順、鎮痛、不眠、神経症、肩こり、貧血、めまいなどの治療を目的とした多くの処方（温経湯、加味逍遙散、温清飲、当帰芍薬散など）に配合される。また、外用では皮膚組織の回復を促進する目的で用いる紫雲膏（ひび、あかぎれ、しもやけ、やけど、痔疾など）にも配合される。また、その葉は浴湯料としても利用される。



トウキ



トウキ

(薬用植物園長 馬場さみ江)

発行
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)
FAX (072) 690-1018(")
URL <http://www.oups.ac.jp/>